

都林泉名勝圖會

四

6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 5

都林泉名勝圖會卷之四

目錄

平岡八幡宮

名號石

高雄神護寺

納涼房

二日殿

練若臺

定心石

羅波房

大狗石

歎茶同猿

足利十一葉本像

竹神社庵

中社

竹神社

三邊鐘

猿窟

楨尾平等心院

石水院

二加禪

茶古蹟深懶亭本

深懶石

等待院

法連亭

夜笠山

故生庵

梅田導故庵

地藏院

秋暮紅葉園

梅尾高山寺

花宮殿

禪院

三尊院丹楓

石室店

莫容池

石室店

夜笠殿

夜笠御靈

鷺

李

龍安寺

島

鏡容池
水石

八景

大珠院

西源院林泉

森山

綾杉

杉

花園社

妙心寺

法堂

四派松

古鐘美境調

什寶虫千件

王周院

棄君堂

微笑菴

東皋院

虎子涉

鐵田家塔

天授院

古錢

授翁真影

記文

如是院

通院

東海菴

麟祥院

海福院

一休詩

虎石

守大朴

舊蹟

南浦畧傳

古錢

什寶

藤房卿髮協

退藏院

衡梅院

靈雲院

桂華院

蟠桃院

人應圓師塔

虛堂贊

後宇多院塔

龍馬軌上

寶塔

碑石

經文切

龍泉菴

聖澤院

難尋院

太嶺院

光院

安井昌龍翔寺古蹟

大應頌

賀陽門院塔

十景

天井蟠龍

雪江松

芙蓉山亭

山門

天井蟠龍

雪江松

芙蓉山亭

山門

天井蟠龍

雪江松

芙蓉山亭

山門

天井蟠龍

枯華室

枝根寶劍

祥雲院殿魂舍

方丈畫

佛殿

毘盧藏

佛殿

毘盧藏

方丈畫

毘盧藏

佛殿

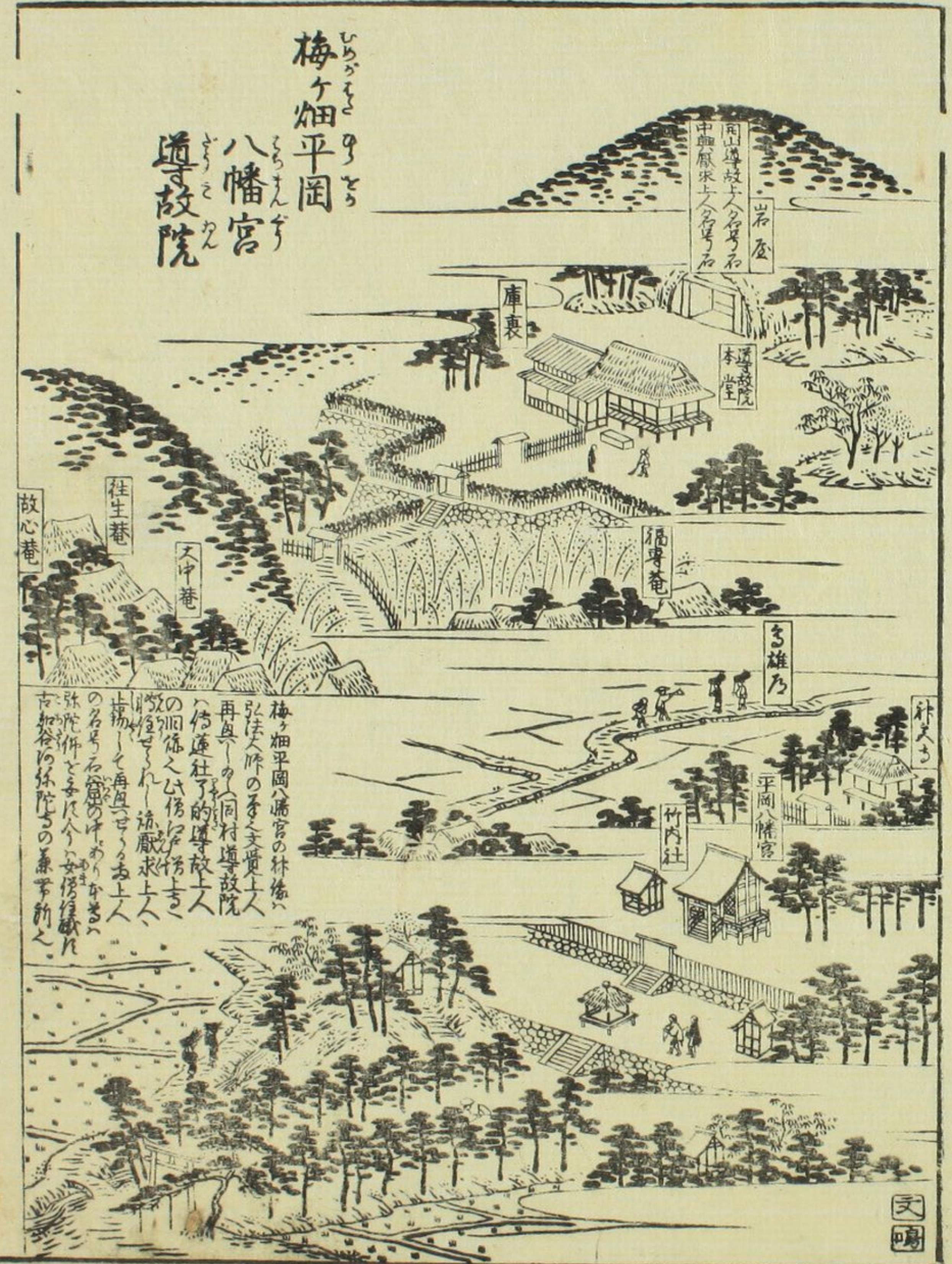
毘盧藏

方丈畫

毘盧藏

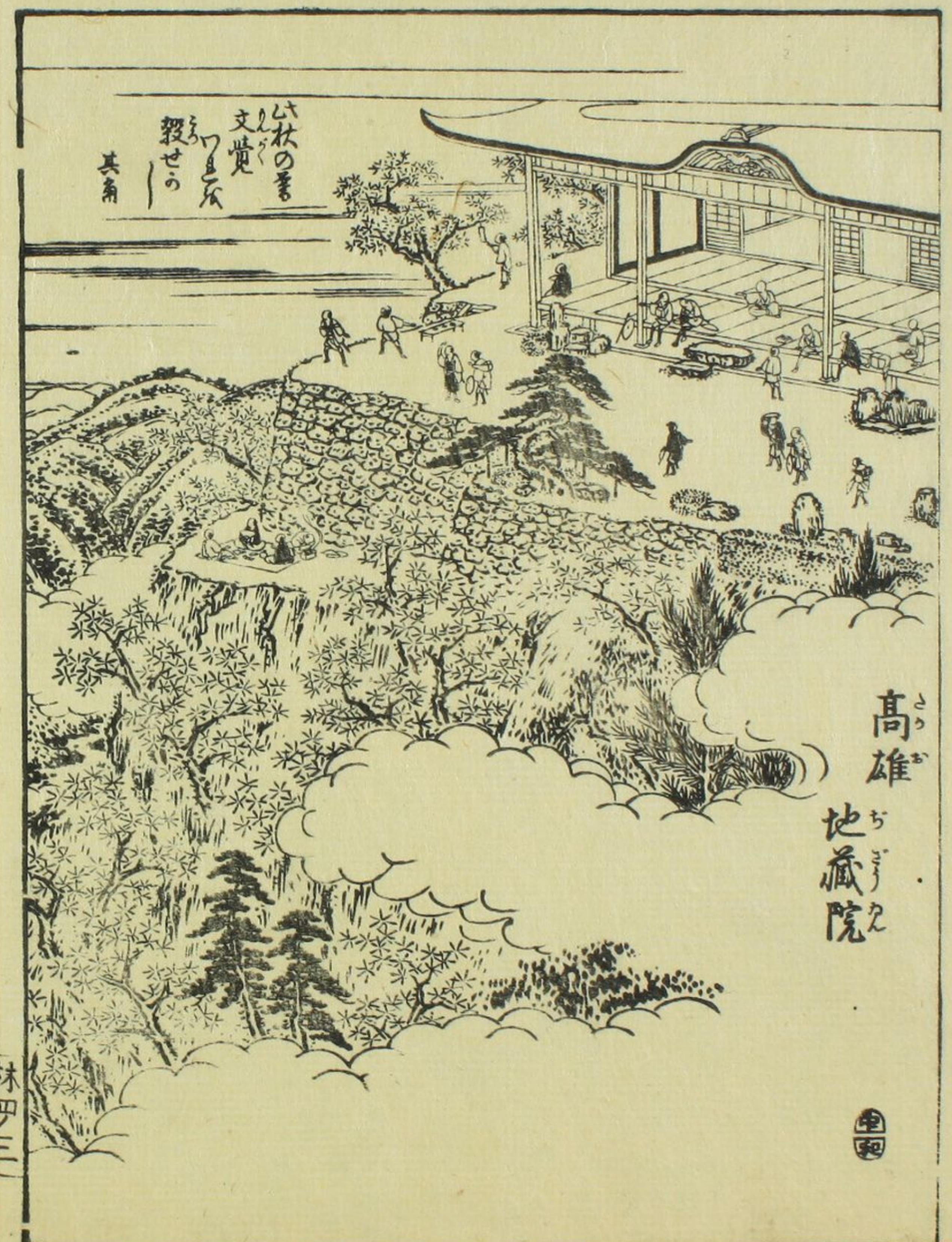
本門

都林泉名勝圖會卷之四月號 終



鹿苑寺
夕住亭
銀の泉
金閣
龍門隨
安民澤
鏡湖池
岩下水
喜日社





高雄山神護寺の林泉は洛北の妙境也那小比數より寺前小清瀧
川望たゞよく流く飛鷺谷口に處ま樹叢かやうよう樹林みる
深秋の頃は紅錦と曝とがめく人の面やでも紅と彩ふ仰よりけは
伽藍みむと一山丹楓うちぬ前わへ道の側小弘法大師の額
書石とつあつこれへ益々金剛定寺の額を大師小書しめやべと
帝もう勅わづく敕使朱うり手打て墨を夕立頻ひ落々それを
清瀧川の水塔も橋も危うく見々々大師志へ召て筆小墨を
倉せじ石上うら額を向て書ひ墨の旁のめく表んで額の面に御
かる人々怪しきふ金剛定寺の四文字現と勅使意悦へて塔をすと
ゆく額立石も懇門の東へあり折嵩山へ和氣は舊八幡宮の神勅
と當りそちくみ精舍公榮創へ給ひ初へ神願寺と号く淳和帝の
御宇天長二年み當る弘法大師を賜へ改く神護國祚真言寺
と號く大師住山へす年六年金胎あ部密奈の宗間大日曜く
ゆき其銘云

愛當之神護寺鐘銘并序
所、有梵鐘形ナ音半故禪林寺ノ僧都真儀
密灌の時、すてて孤立傍故實あり一宗みふことなく摸そく用ふ之
又當山の鳴鐘、世名高く本朝の名器也、く三絶の鐘也称歟
銘文の撰者ハ菅原是善卿序詞ハ橘廣相筆者ハ藤原敏行
銘一首八韻、右少辨橘朝臣廣相

厭體有二寬窄

宿昔三尺

今日千斤

谷響由旬

功無舊新

山聲萬歲

慈周世界

聞宣覺夢

扣即歸真

蒙叟當仁

感及非人

雕琢懸趣

參議正四位下勘解由長宦秉式部大輔播磨擁守菅原朝臣是善銘

圖書頭五位下藤原朝臣敏行書

此後樓後並板倉伊賀守の再興之其銘額書

當寺鐘樓再興從四位下行侍從伊賀

守源朝臣勝重爲驚三有之長眠而使一

切衆生證佛果菩提也

當山地藏院の林泉は客殿の庭中より溪洞は清流漫々と

かづく尾端より谷崖まで紅葉もぬ所あり此都下の驛客

あくまでも遊宴せしむる事あり洛北の佳境の其一なり

本主真雄あるもこれ底なるつゝめざやまといたと歎詞也

五經法傳

井性お高雄文覺上人哥五首承く赤極禪門許小持奉告其ノ殊重く

當山地藏院の林泉は客殿の庭中より溪洞は清流漫々と

かづく尾端より谷崖まで紅葉もぬ所あり此都下の驛客

あくまでも遊宴せしむる事あり洛北の佳境の其一なり

五經法傳

第法練行心通和奇矣之由記綠社書載云又云文學上人ひありて
ゆきすれり其故へ道世の身とあらば一筋小仰道修りの外不可他幸
殺すとたゞあくまでもうそをぬるわく条ふべき法師うつてそ
もとあくまでもうかへ難くあるまことにものあくまでもうと云
或時高尾法華會西行もとてたの法かやあらあらたな事すも
是ゆゑく上人ひあくまど思ひく法花會もとて傍ゆり多小原
物やうと云ふ上人ひとどれうかれありとや者そひ法花
縁のたるがまく今自ノ公一衣け拂店室ひんやまくみて
とひひなれを上人ひうちあくまど引くありいはく半叶ひかる神
皇あくまう膝子をあけくまち先り走りありてまよ入る入る
對面あくま年頃義及ら見秦み入度は拂乃候入公よりかや神
於物あくまく非財かやく覺を以てく次の朝又亦かとくをく
かゆうますをまつぶるがまつぶるがま候ひく上人ひ

すも西り少くあひよふかへらうもよんがわゆ拂わまうひ
特々人間み拂わ語りほ年日來往せたぐひとやなれあひ
うひの法師とりやくまく文覺はまくもくわのつまう文覺

とぞきとまくを教者あれと存一けると云

類聚國史云
坊中曼陀院院ハ中祖文覺上人の後院也後山又文覺の墓あり七月二十日
遙望埋婦之塚

延暦廿四年八月宣勅令最澄師入唐所
受灌頂秘法是大法師修圓勒據等七人祖
僧少下雄之共武爲天皇修毘盧遮那秘法上法師亦在其中
道寺裏灌頂也中界天長元年九月壬申始興
鏡爲定額寺并定得度經業等正九七日格云
以俟和氣朝臣仲世等言云昔景雲年中
以俟邪之資登玄扈之上辱僭

先功以神願寺爲寺爲定額今此地勢沙
穢不宣坦場伏望贊高雄寺爲定額名曰
神護國祚真言寺

河に寺立く神願寺とて生乎高雄のふニ梅一立ツ
今之神護寺あれどり

る故の如き尼侍りてた寛羅侍れがま
お候侍したを迷候

さくらそはうてはう老くせやうの意も友モ行くん

於石

梅花無盡藏

溪橋殘楓遊鷹尾梅尾其地在洛外四五里有風之路生有醉僧有歌者

洛外秋風溪有橋見楓無處杖支腰晚梢

紅老房々路雨高鷺道中作

北斗集楓林暮雨高鷺道中作

点楓林鴉赤レ査晚來細雨作新泥幽探

不覺雄峰遠行盡仁和西更西

默雲草

高雄山口號

紙窓晝暗覺雲過石燈重攀綠蘿一月

徃來岩下路樵夫面熟不諳何

天隱

色葉字類抄云
高雄寺ハ原神願寺と號へく應神天皇の御願寺荒廢中絕
の後も氣清齋抄云小幡大菩薩示現有^{シテ}興隆ノ歴弘法大師
聖跡シテ真言教ト寺並傳並本朝真言ト傳へる事ニ番也

元慶八年此寺小り音ナリ有^シ圓史ルニ有^シ

納涼房快鬱抄云今納涼軒あり弘法大師本房と云

性靈集於納涼房一望雲雷

雲蒸壑似淺雷渡空如地颯ヒノ風滿房祁

雨伴颶天光暗無色樓月待難至胞懸

媚殺人夜深不能寐

櫟窟山人云高雄の貌數シテあうむは故大師他續の附櫟庵ト

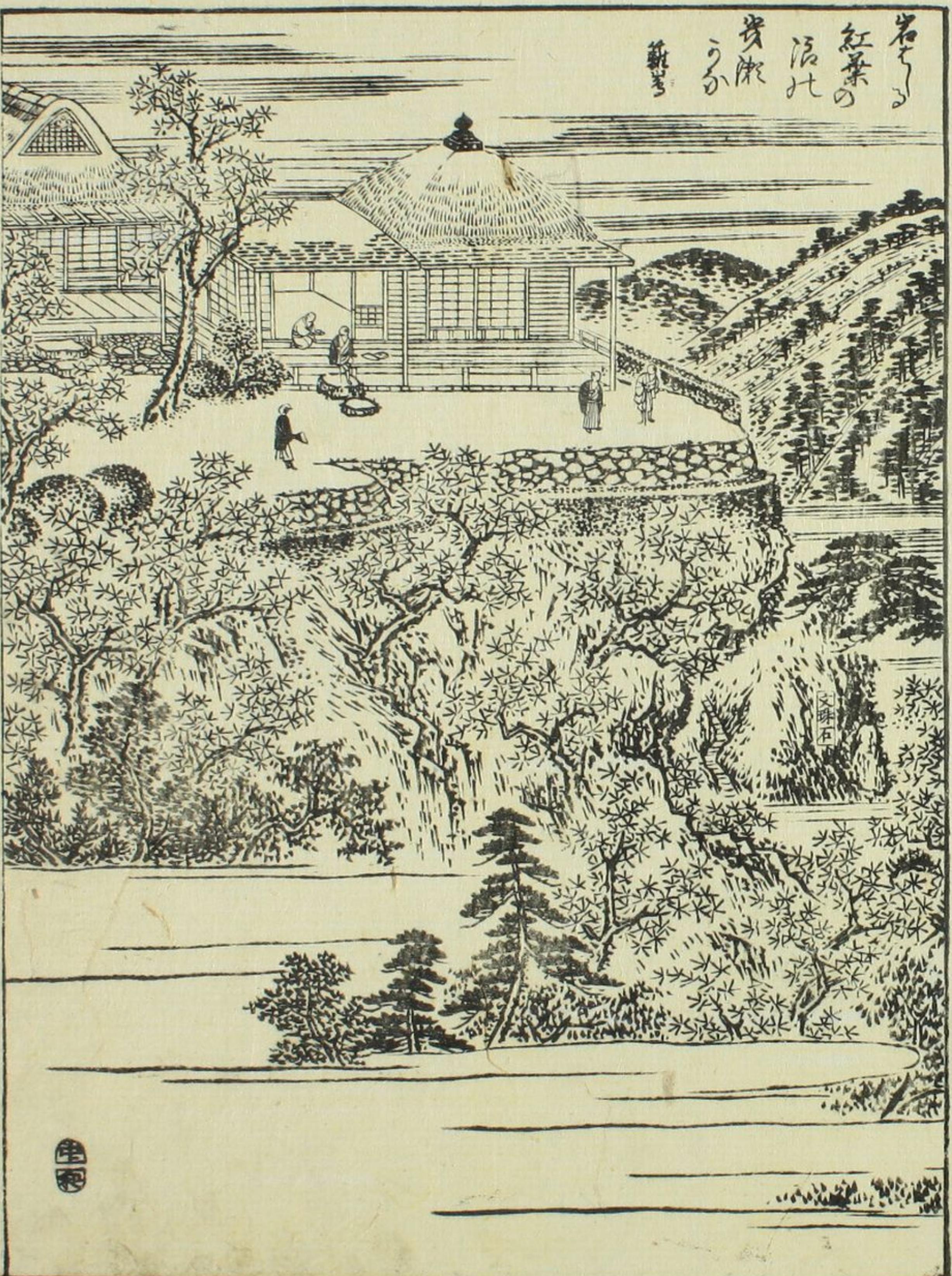
二日坂其社あい坂名行^{シテ}其後^{シテ}櫟尾ト自詠上人^ト興^ス牛吉

う荒廢^{シテ}慶長年中明忍律師再興^ス今之ゆく真言律院トある

梅尾高山寺
三尊院

滿溪霜葉
景將曉翠
壁高含一
帶雲日暮
院僧歸澗
戶冷冷鐘
擊渡山聞

新羅窓



梅尾高山寺

の林泉にニ雄の其一即ち同ドく寺名又清瀧川のぶづれきとく

橋のやまう丹楓あらぬ跡か一寺說云上古住吉大神の靈蹟ありて建承

元年十一月後を羽院詔伏下しく明惠上人と開祖又の名ア華嚴真隆

の精舍とて本尊は釋尊を安一鎮守の妻日住吉の二神開山堂より明惠

上人の経を安一其傍又廟塔ありて日神教向窟の開山堂の漢簡があり

文殊石明惠上人辨坐一又また文殊并教向ありて光明真言の法七

種の秘下持戒清淨の下を授與一ゆく所之今小岩町文殊の種字述於然

う仰足石明惠上人の像をひつゝ今小岩町文殊の種字述於然

當山の高嶺と五岳山と並び練岳基ハ西の峯小あり建保の上人

あ小竹庵と號びく坐禪一ゆく遺跡へ當跡の寺一石水院の跡ハ今

春日住吉の社地といへ名跡之花官後羅波坊へ春日山の中、又あり

跡の

寺ニオニ加禪も其側又あり

禪院ハ開山堂の西谷又ありて

は名義ハ西天伽耶城菩提樹の木が流す尼連禪院の地勢小根仰る

を引く號は之六瓣心石とて清瀧川の上あり

オセの邊

高矣上人明もさかくて小院佛室又ひれぞう文宗坊よりてその小童

と見くは兎々あやめあいと相一くあげく坐覺文學又號りてオミ

アト仰さんややて坐て坐り法師又あくち雄お住せたりかくり又

入室入室あくらは坐り文宗坊よりて坐覺文學又號りてオミ

アト番近とせよくそーらたる事高矣上人うちとて事又ひて坐

教のりてゆき坐りて持くの奥入りとも通ぬ所そ只を人子

もさう益はく裏近う食わとうとてする付の中よう走りてさうく

其後七八人が分を登りてさうして又あくね坐覺文學とりちく席入室

又の中小二二日も居て坐ればかくもる事二二日又一度必有タフ

文學坊始末公室と坐のうまひふれど植者の所爲へとせひ

うじ上人嗜む玉露とえびひる大神基賢グ子又光音とて僧

の上の才子みくはタラ年に終仕くはタラダガアラタラヒトモ

くとれおもひよどりさびしくすまねとくよもうく
の筋あらわし小弓文取く跡よどやひれをほくはまされふとづくまくあるが足て
けみよあくじあくのみよせ宣ひたるゆきうつヰキアリ
ヤマタ素す生なまをもひくとちのあご今程いま程ほどへよた心こころのもむりのとぎ
させの月つき又またとく房ぼうを歩く清瀧川きよりょうがわのほとりに望のぞくせ余町よまちをう
かづりあへぐ大おお石いし有あせれのびりとしげいへいふもやうあり石いし
伽藍がらんかのうちう確たしかみりやあくえん粉石こじこいしかどやうんうりうれう
ときぬあまたあくれとあくとを滿まつのわ活はつとく坐すくせられを
まくもまくんとくそめの石いし上うえふはくふ有あつとも覺おぼぬりを庄いえ
一牧まいとた牛うしとく光ひかり若わかふもせられをうそだみりづくらう本ほんども
彼石かれいしとは定心石じょうじんいしとせ名付なまづけれをうの悟真ごしん寺てらの石いしと模もせ
られをうを又繩床樹ようじゆじゆとして松育まついくの松産道まつさんどうをあくわくあく
正月せいがつの頃頃松のりを身着みつく観念かんねんせられをうがあくのあくそれも

岩のう松のあつけ小まみ深の神れあれやかけ／その玉
は外明あ上人祝きの室跡がおさんとく弟子十余人を相見て天皇へワニ
竹人とおられたり南都某日大内神アシタノミツトシクかの御室へ一泊
あられタリ不麻六十尺膝ハシとありく地ふうくうやナヒタリ半歩ハーフ歩ハーブをえ
うりあくに畧ハラフ

梅尾茶藍觸メイウチャラン 深瀬フカセ之布床ミハシキ 梅尾高樹メイウコウツの山の方ミヤマノカタ 古稀コザイより相傳ソウデンフひ
蓬仁寺紫西禪ボウジンシ源へ宿ヨシタ一々深朝シムタケの附
茶實チャシキと二粒ツリツ伏將ボクジョウ木キ一漢カンの小枝コブシとりく茶器チャキ又腰ウエ上人シナノヒト小榜コボウマサ
昂アガマけ也カマク茶深チャシキ井イ本ホン木キとく所シテ植シテれ之下シモ茶園チャエン也カマク其後シキコト

宇治里ウジリみうらへ夢ウム

思ふるゝ事あらぬ万ふばみとけゆののかとの事也哉
海人藻夢云
茶へ上古より承朝より挽茶節會とく内裏又がく公事議式を
り侍従小葉上儀正入鹿の時市をく縦と渡る梅尾明惠上人も其一
院のすきれを梅尾宇治の名産

忠傳記云
建仁寺長老より茶少派進せられ候之毎席耳是が向々尔茶を遣因
消食氣快也。一む徳あり然とども奉朝へまことに善也。既とゆくは
其實と云粒植初ら之を誠承服と覺。一氣少時目睛と徳ありが衆僧

寺記云 みと服せ一毛られ皆

深瀬の園ハ高山寺の傍より東北の地を以て明惠初年茗實二粒
を植えし一也。因茲梅尾茶名深瀬二本木茶と称じけ。菌今に
あり其茶實二粒入て榮西禪師より進せられ茶入と漢小枕
やいへ當と才一の器あり。又云城州莧道郡歸茗園。明惠上人
の園あり。やいへ其前ハ莧道郡五箇莊之内之梅尾より冷之地
温陽之地を求え茶樹伏縫一株。んとく上人馬より騎く巡見一五箇
庄の内大和田山一つの園地を得て梅尾より茶樹を分移し植え真
園次駒蹄紋として御耳

梅との尾上に茶の木を植え生て駒乃蹄影

高辨上人

其園ハむし莧道殿の茶園。平治の乱。莧蕪とといへ。其後茶
園久々世郡宇治里。梅をとめ。上人茶。伏縫初からいゆ。古來
より今。小室治より毎年新茶を上人の影茶へ献ぜり。とぞ

高辨上人書翰云 禁裏御所献茶梅尾諸房目深

地蔵院一袋。田中坊三袋。東坊三袋。

中之坊二袋。圓井坊三袋。東坊三袋。

已上十袋

大樹公獻茶梅尾諸房目深

地蔵院一袋。田中坊三袋。東坊三袋。

寺奉行飯尾大和十袋

五袋

高辨上人書翰云 明惠上人初の名成辨。其後高辨と改らる。

は書翰入。小高山寺小あり。

高辨

古記云 高雄上人御房 大覺

明惠上人茶。莧道師より乞得。茶實と梅尾。小株。其茶とお施

一ノ時。帝。獻せらる。岩上茶。う。茶味勝れ。と歎感有。都若
と命。之。せん。う。岩上茶と鄙若。と云。梅尾茶。伏縫茶。と。茗。と。ひ。ま。す。

畠山義就書翰云

就御内書之義。卷數則日出度候。候連日。前念之驗。祝著候
猶。祈福憑入候。仍而茶到。宋云。名物賞。號無極。候。奉。之。期

朱信候恐之

卷之三

卯月十一日

は田中坊ハ今ノ岩財院ノ御名也。山ちの宝庫ニ有アリ。
龍巖集云。梅尾自古産佳茶。而未知有其名。其
山及レ閑下清拙和尚集。中同夢牕國師遊。梅
尾之詩始識。古呼爲茶山。其詩云。幾重峰轉。又谿廻行。到茶山。曉眼開。
佛殿東房小樓ノ上。夢牕清拙記。同末。

西齊詩話云
壽上人回自日東其國所產以梅山茶

見レ惠賦レ詩ヲ謝ス幸ニ得ニ梅山ノ信ヲ初テ掌ム日本茶

詞不言忘思召假朝日游深之走捕
閼伽井逆淵外烟小島等云云

茶深瀨小畠天狗畠一瀨外烟岩傳門不
見橋返鐘樓花禪河院ト云云

異制庭訓云
五口朝茶之窟宅以梅尾爲本也開山禪師

依習禪勤行之障。晦庵爲強敵。爲彼退。教窮治。
降伏植茶而爲精進。幢傳賢首之大教。利。秘密之奧談。故經云。以因分可說。但爲利。
益說。之真詮。爲茶之末。以果分不可說。我。
本無有言之秘宣。爲茶之本也。遍土洛陽。
之名山名所。如雲如霧。各誇其家之春。雖。
嘲他山之景。皆是爲城州相尾和州清滙。
之末流也。仁和寺。又云我朝之茗山者。以相尾。
爲神。伊尾寺。第一也。爲補佐。駿河居。爲大勢。
天下所指。言也。爲伊勢河。駿河。清見。武藏河。
越。茶皆是。伊賀八。

茶壺統言

おもお主よの中園一の法師より鄙のえをうそひままでつらそく
まし合ふ本の本がたとえ六十うんのううとりうちおほくのりとはまく
云庫の津年も着てうり兵庫とやく二日み梅尾みも着てゆきまの坊
谷の坊特小名菌アラタニ脚伽井アハシの坊れ穂先ハシマツを十角半トクハーハン笑わぬ壺ハラフ且うち
今うろふせあくく圓アマカとまく下は下界

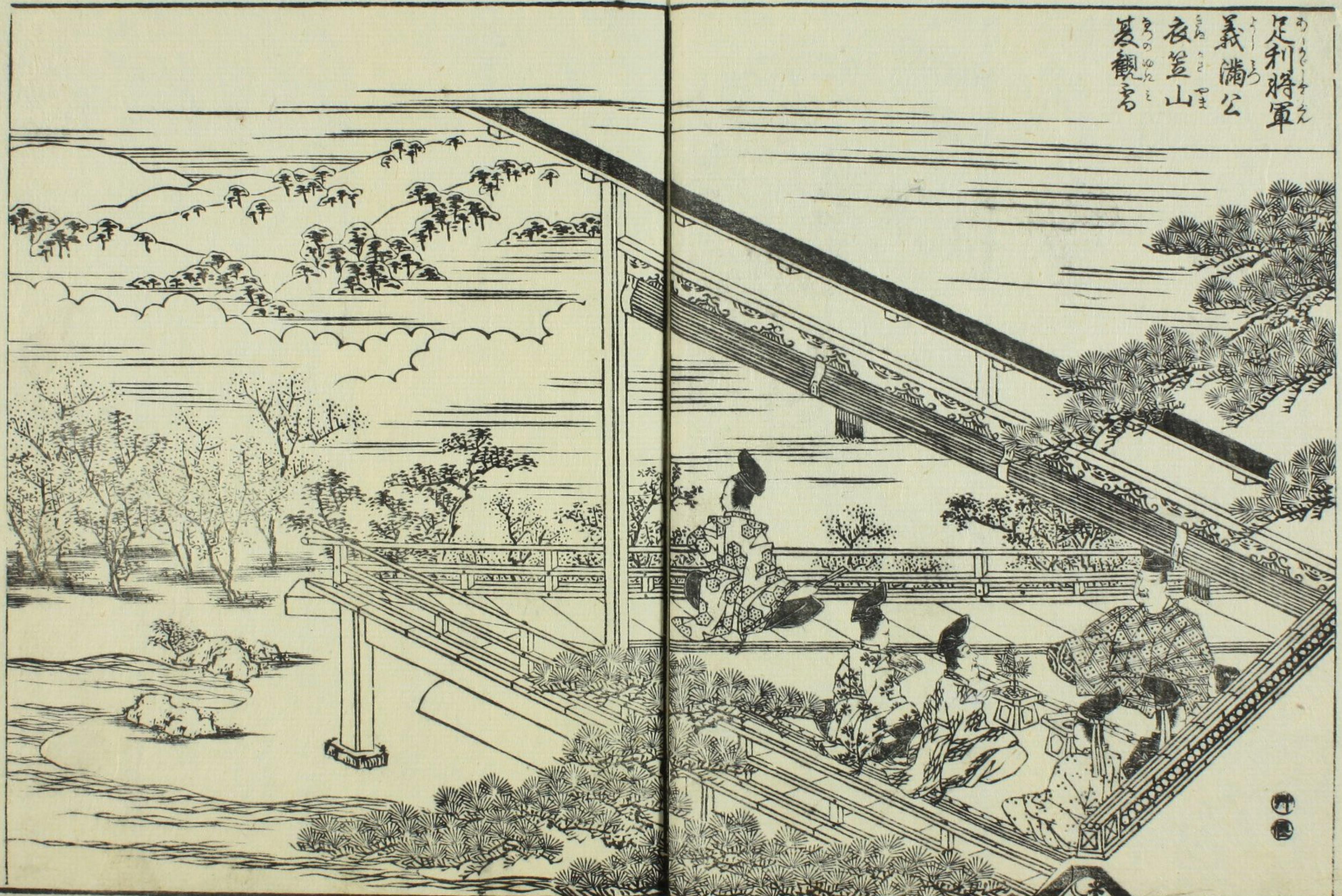
近年寶晉中梅尾茗園記抄と金龍道人著にあらず公畧ノ一卷に止りの

等持院

卷之二
國師
惟



足利將軍
義滿公
夜笠山
夏觀音



等持院

葛野郡等持院村

御山の裏窓園所

大竜寺十刹の内取り林泉

等持院

小美容池ありく風色雄雅へ足利家代との昭堂は慈照院義政公乃
建所其后足利將軍十二世宗本優公安に佛殿の本尊ハ釋迦佛
左右阿難迦葉中央果證の額ハ尊氏公の母公代牌所登真ら同公代

室也衣笠島ハ同具女くとひ

五鳳集云

暮春北寺看花時住等持院

蘭坡

天公

省支巧相違北寺花多南寺稀

百萬買隣今不惡袈裟角裏落紅坂

太平記云

延文二年四月廿九日尊氏公逝去に衣笠山の禁林等持院

今方丈の後山也

塔

等持院領又西小至て櫛安領也

衣笠山

古人衣笠岡と稱す

衣笠

着小使衣笠正とすもんの祐祐

被あれえ可も

達介

着小使衣笠正とすもんの祐祐

被あれれ可も

高盛

龍安寺
方丈
林泉

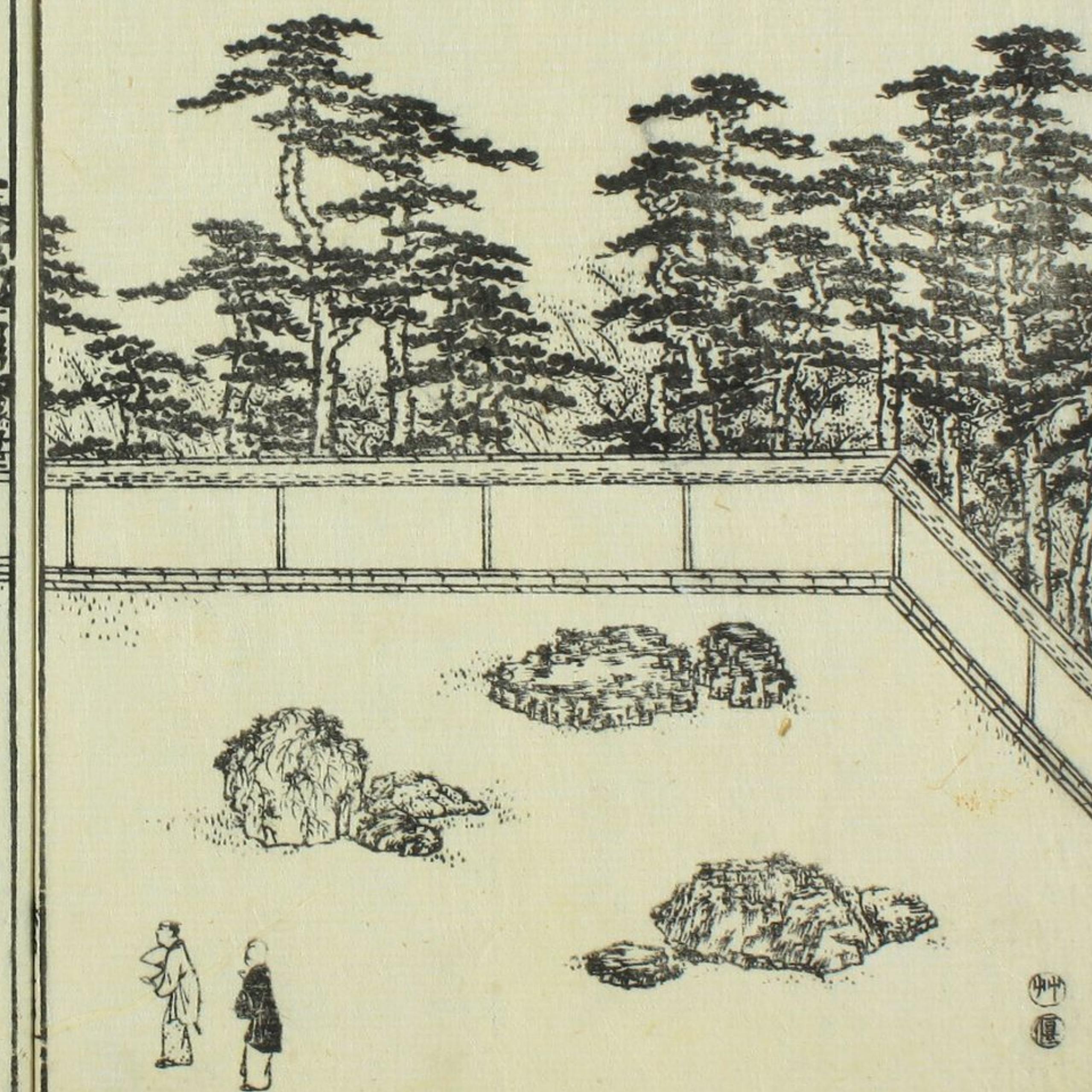
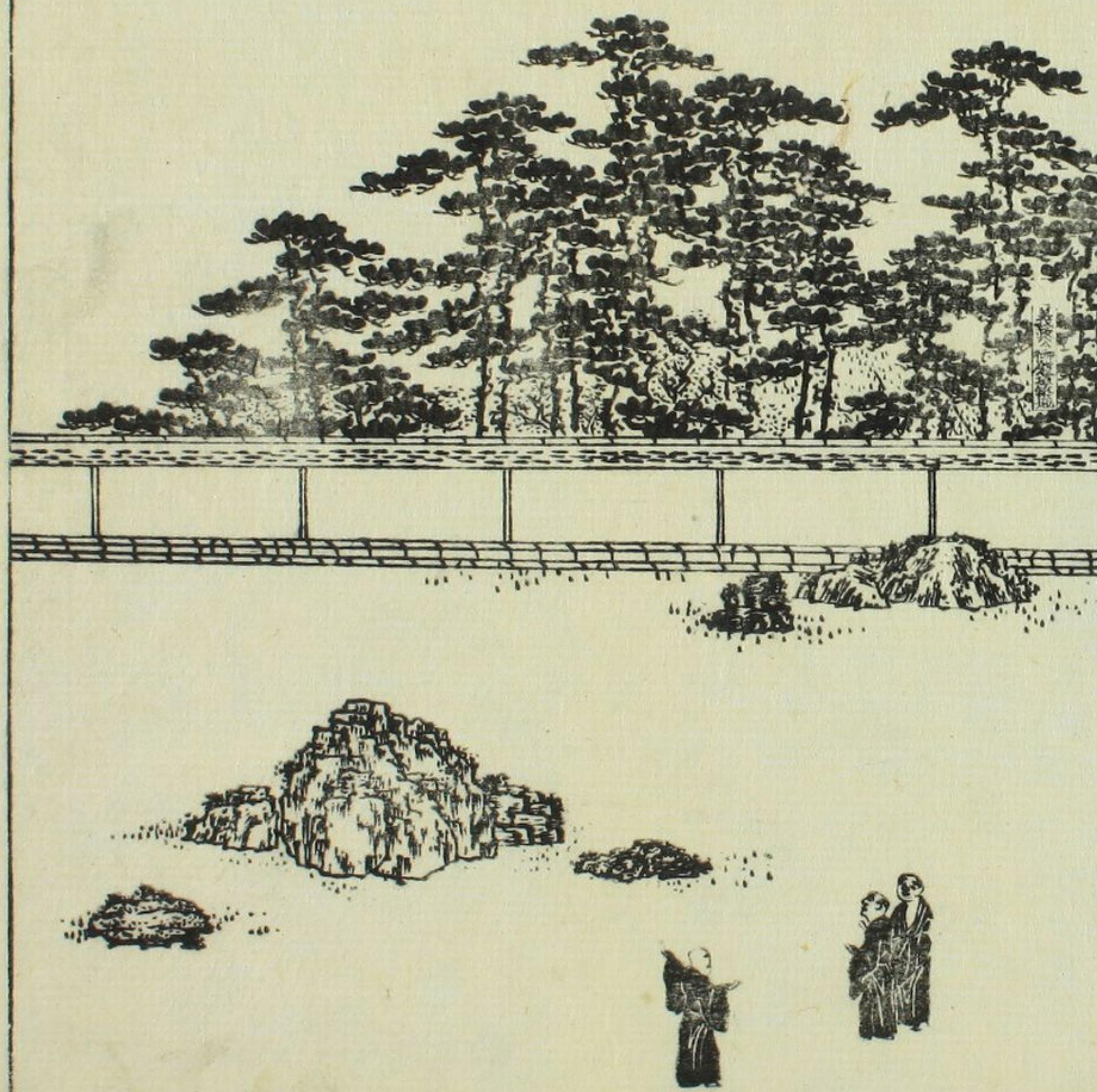
四
圓

細川勝元
小野秀次
草人佐さく井
書院より毎朝
界山八幡宮城
遙旗せんぎを不
庵中小樹と便に
風流の間はそ
れと相向はる
柳りへ名づけ
虎の子うさごと
之の名前を
塚の外せ古松年
きく巻く青の

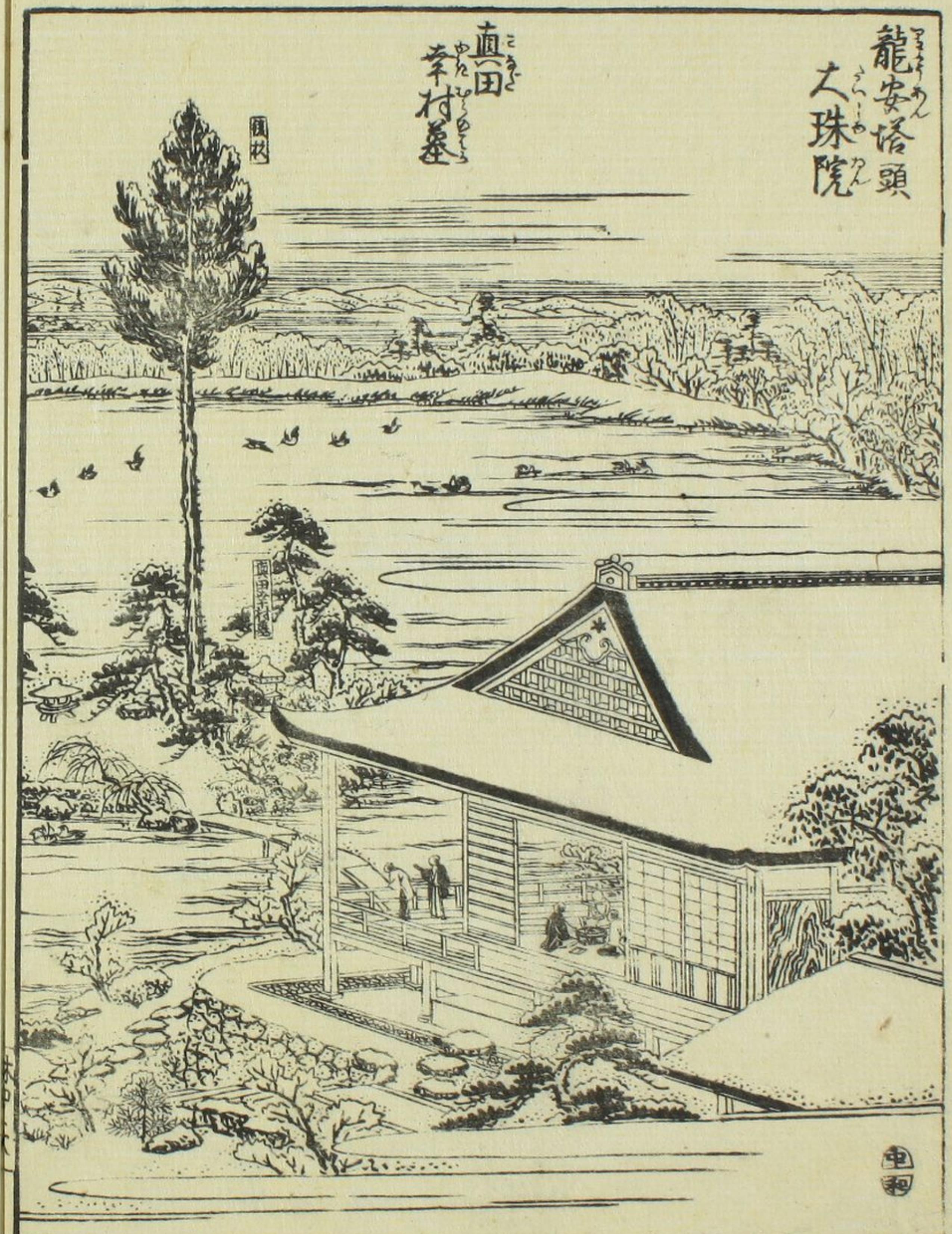
風景と
其上近年
方丈四派し
物がむかうと
情灰暮れ行

一度空曠白砂
平頑石誰鋪形
勢成死似昔時
渡溪虎分嘴兩
子泛波行

皆川惠







龍安寺

の林泉も封境も名池あり鏡容池と號に毎日鑑賞多く數

多く治小の眺望也是名為一池中よりの勝あり中の勝伏虎や

レバ水引石といへりあり林泉の時は石上一水然めれど西の方乃趣伏

上く水引石を之ニ笑橋といへ東の方もあら高ヒ小八景あり是みか

方丈よりの遠景と之く風色と之 東山佛閣 慶源廟 伏見城櫓

漱院紅葉 新謂方丈の庭ハ相阿弥の他モ一治小名庭の才一と之

庭中小樹木一株もふく海面の躰相み一と中より處數十種あり之

鴻嶺又准一真の風流モ一と他モ比類か一と中より處少虎の子波と之

掠じて文明年中細川右京大主勝元の別荘へり人書院玉坐アテ遙

ハ幡神廟を毎年祭り奉る事中より樹木と極モセドトクノ初メリけ地

後德大寺を大官實能公の別業ノ同ドく公有公の代細川揚子小護れへ

書院集云

文治の後後徳大寺の左大臣が一とある時後徳大寺の亭より化粧紙

せしられく中門内た府へ案内ヤされタモモワツトウシヒナツ其時

左府の車仗をモ一びく又あらざられタクノ事あたう其のう事

申されタモモアガガチモヤされタモモのくく泉えつるくひなう事

其次日北院の佛室威法も法師モ寺中を寺中をひきだはれ

ちとば返駕の半時トヤテケミトモエミ半小時のござく小泉が

翠まで左府をしれり入佛もくらんがのトーヤシルモノと申

登りく渡赤わく

塔頭西源院と今假方丈を便迎平方丈宿融も釋迦迦葉阿難の三尊モ安

ト開山日峰和尚の像と安慶禪の画ハ中向熱金極彩毫の化人畫東向

竹林虎西簡琴碁書画杉戸表象裏龜俱小松壁水德の手之院の

林泉又風流モ一と上院の北より茶室あり額藏六と書に正法山

桂南の手く西寺の後山絹笠山りづく者日の壯觀あり

塔頭東泉院の林泉へ遠來を興と便坐す。八幡山崎淀川のふづれ
小倉の江伏水香羽羽東師かと解み乃と風光微妙。

同大珠院の林泉へ鏡容沈思の才も巡りて庵中の中ある池中の橋
石橋伏つてく橋の中は緩松とて名木あり株の皮目小生ありて緩緒
且仰う葉ひたの杉小等一焉サニ丈許承師の珍本之其本下り墳墓

あり中は真田左清門尉幸村の墓の五倫の石塔婆を建て法駒と鷺を
幸村法駒 大光院殿日道光白大居士 竹林院梅溪外春清大姉 乙卯五月七日没
幸村室 真田氏の家系小條く什室と寄附に今當院小あり
幸村の娘の牌と真巖院法駒宗達大姉 乙卯五月七日没
。善賢像北殿御奉。布袋画宗達筆。唐画の鹿。不詳
。紙屏風。雙。鷺。金屏風。雙。鷺。鏡。側淡形
龍猿の繪。其外も道具教説品あり。あくた畠。寺院。院も
石河佑成ち扇の菩提所より。太平の後親屬の因公。寺院も
ちに建らる。

花園社

後古事記六
花園社。心のあを阿許路傍の南あり。糸井花園。左大臣有仁公あり。
土人今宮明神と称。生土神と云。

後冷泉院の拂内世男さぶがーくうつ付並閑のを小社伏仰を

お祈やる庵と示現あり。奈良府生時をもぐり。共清府
のものとも社とはなく。拂内舍伏をかひあり。花園社とそ
ひひ夕房

頤阿古蹟。旧跡。心のあをアリ。頤阿法師山莊。今。さうあるに。今時
りのふくらんを。あきふ

迎陽文集云

柳葉花園院者平生棲息之闊地終身安

頤阿五旬願文應永五年四月弟子法印

大和尚位權少僧都。在賢敬白。花の比園。南。茶花園。たへさせたまし
ふの花と。みだらに。万葉

余かくよのまよ。あひそひそを。うすい。小。と。ゆく。お。と。く。日

をのうたと。くきく。と。ゆく。都。あ。う。な。の。わ。く。日
茶花園。小。ゆ。と。法。車。の。後。院。室。本。守。日
林苑。あ。の。花。を。伏。か。り。う。眺。を。く。日

案

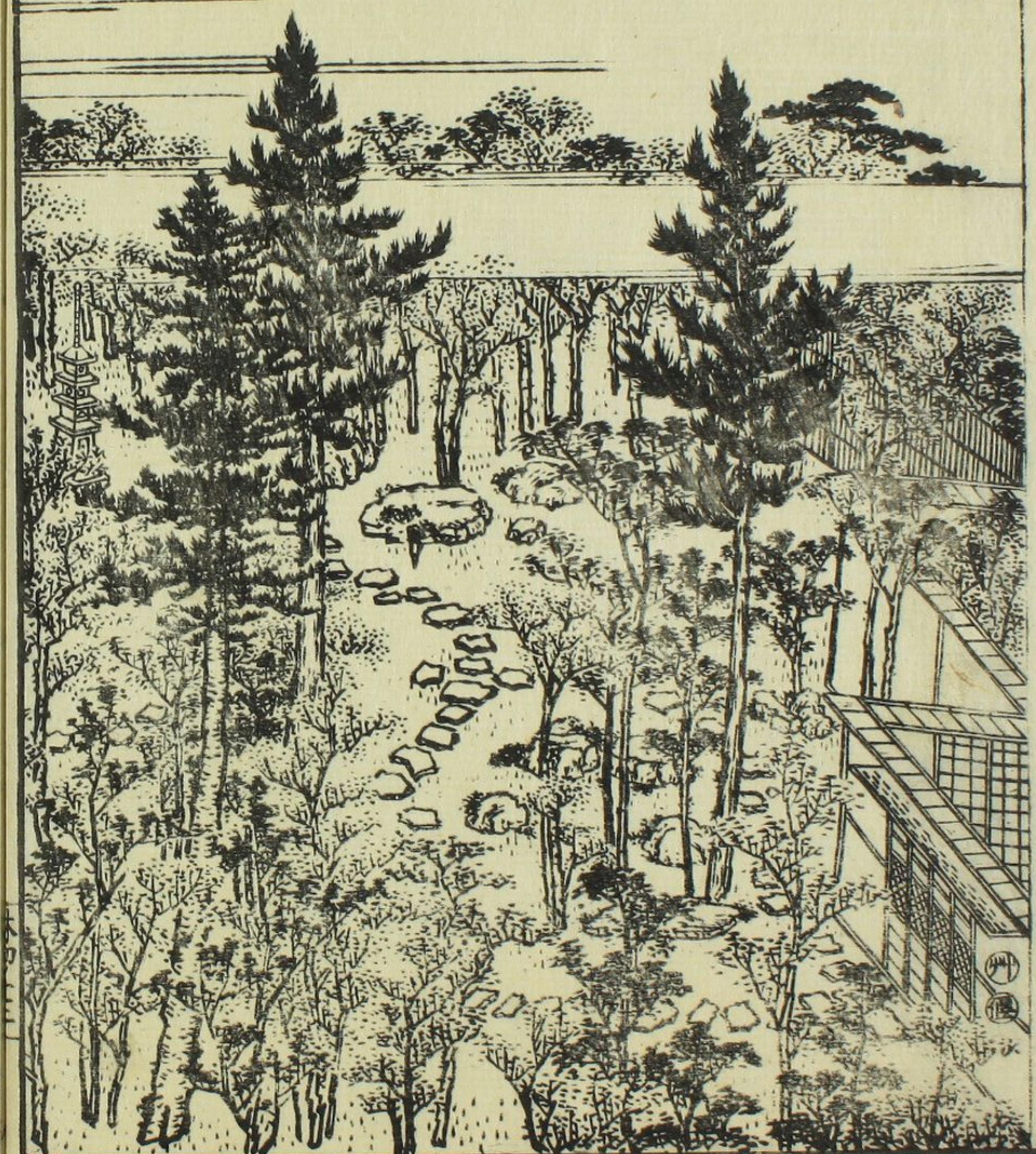
坐ひひた色伏あら。さうに身えひくろみ。ひの花の法引

竟



妙心塔頭
大通院

通院の林名へ
お樹と石を
一ノ山塔中
第一の名庭
うり一代北
住鐵相南高
四方海養父
ゆくは庭と
知りゆ



湘公豈忘故
丘情遊戲徑
羊一小瀛樹
萬里輸
浦山川
石千般後甲
京城白沙
舞水多洲魚
碣峯多松弄
海聲鮮道
巖峯不胡
說園中幽趣
擅佳名

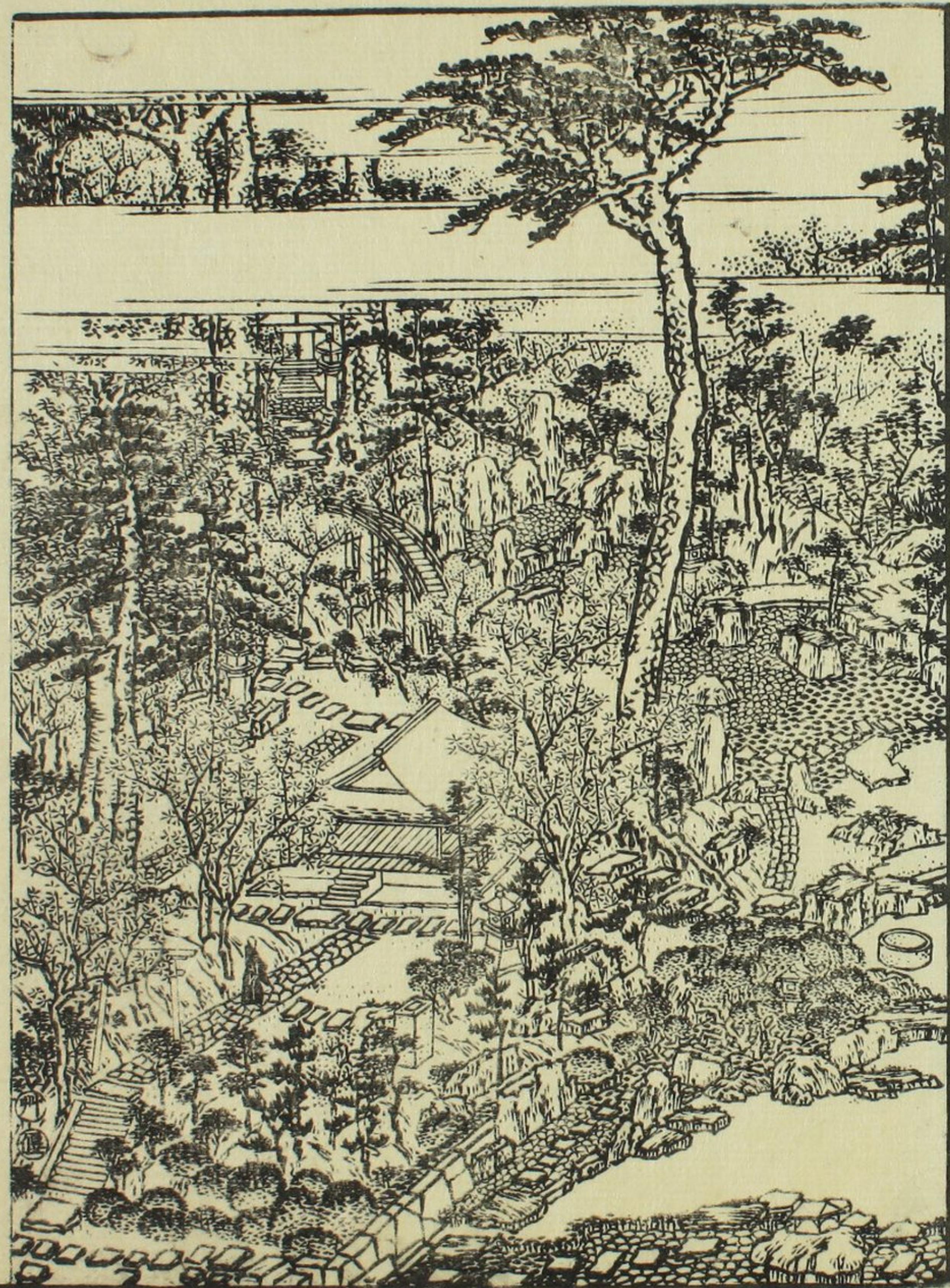
三浦芭蕉

大通院

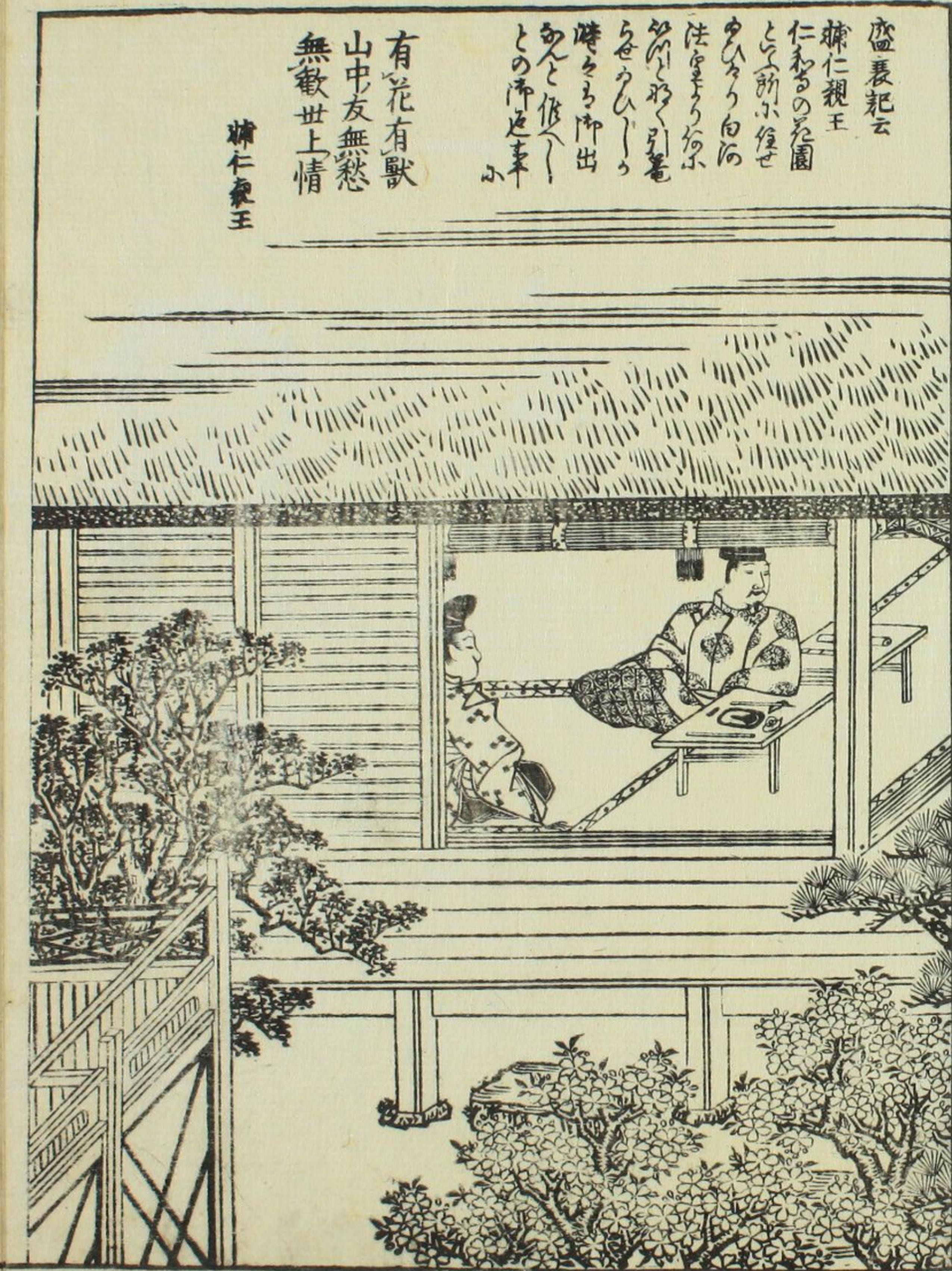
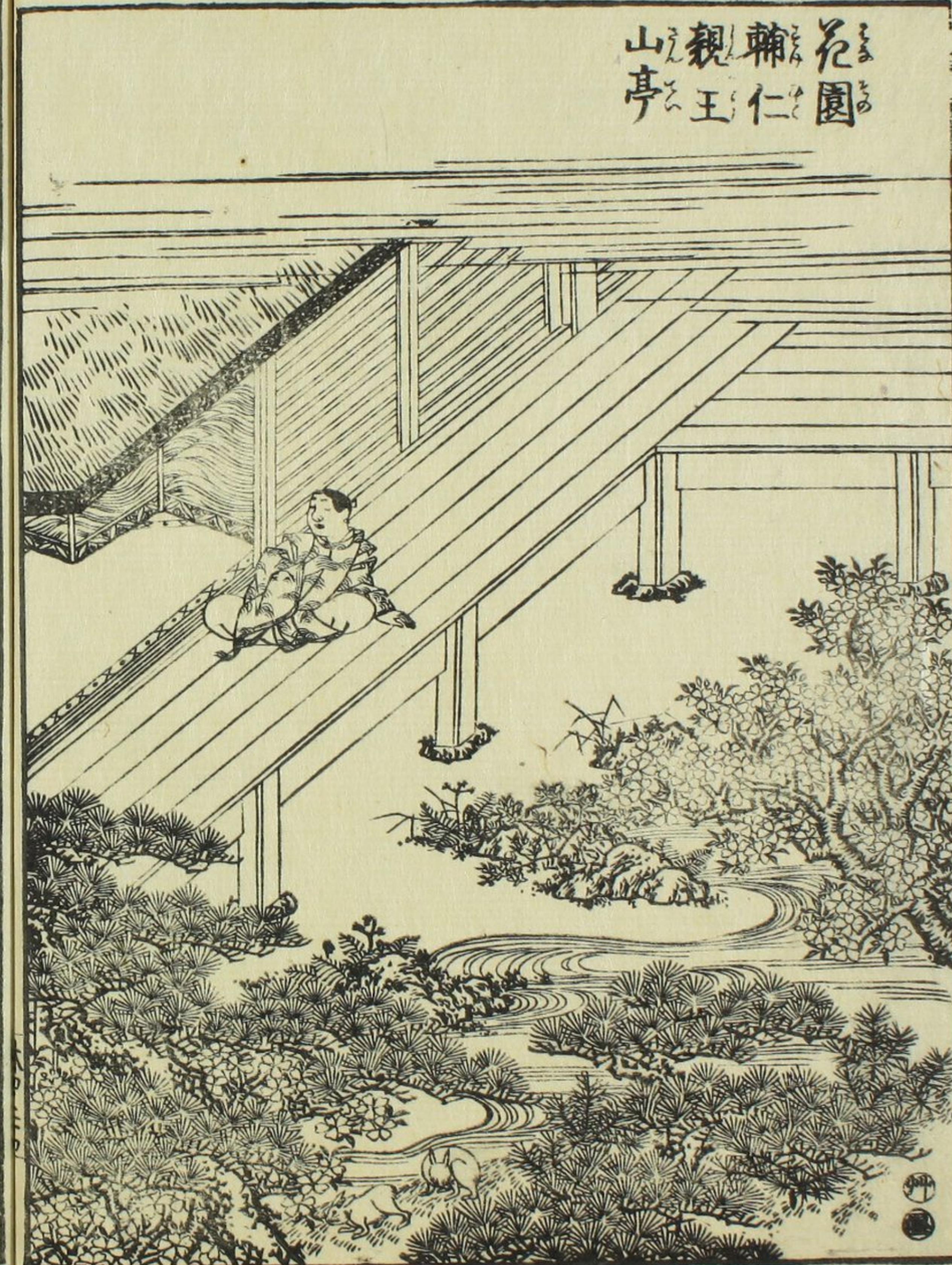
其二

苔深石逕掩
喬柯返景照
林嵐翠多野
烏時傳虛谷
響山庭疑是
坐雲蘿

百々聲



花園
仁王
輔親山亭



有花有獸
山中友無愁
無歡世上情

輔仁東王

盛衰記云
據仁親王
仁親王の花園
と云所小佐
ゆきう向河
法皇うゆく
箭と弓引着
をひげう
腰うち脚出
ゆと後く
との帰返率

正法山妙心寺

元花園法皇の離宮

人皇九十四代花園天皇と林川源性院

聖壽

其初後二條院の皇孫花園左大臣有仁の別莊其後裔相繼

く傳領せり然る花園法皇也系父愛とひく離宮と天性禪法

飯は跡小閣樓一號人モ小信州高梨高家の孫ニ惠玄と之僧あつ

相州源倉建長ち度教和尚を謁して薦髮一洛北龍寶山燈圓師

小法嗣とし時法皇離宮を捨て惠玄を附屬一詔とく開山圓師と號

一山の角山とし法皇ハ伽藍の東又一院を創とくちも小舞坐トテ

あれ伏玉鳳院としあれより先皇居伏玉院の別宮小移次

寂次年八十四丈二世授翁和尚泣哭とく大衆ニ告ぐ丈室より昇入本山

良の隅身塔が遠く微笑庵と號く其後勅とく本有圓成佛心

覺照國師と謚

山門

慶長12年三月鐵山和尚住山の附成道に

鳥藤拍手叫令辰五百僧房萬物新

鐵山

佛殿

龍年和尚住山の附天正年中創建を測

法堂

江繁りな木の松二本各長サ九丈半本口の徑五尺又す

刺繡

末等一日向園よりちよて伏求むを半海小舟又左右

法堂

江繁りな木の松二本各長サ九丈半本口の徑五尺又す

佛殿

江繁りな木の松二本各長サ九丈半本口の徑五尺又す

覆榜畫龍

法堂天井の画龍ハ榜題探幽法守信の筆取り

覆榜畫龍

其榜一山の大衆議日洛東東福寺法堂の

覆榜畫龍

龍ハ初ノ北殿前紙小畫てあり紙板上又貼次年久しくある

覆榜畫龍

同小畠れて被散れ今ハ持聖光額が家あり當山も直子

覆榜畫龍

板上又畫さりと守信に乞人易筆伏揮ひ墨彩矣

覆榜畫龍

眼點を乞の日像子前五頻み一室乃

戊戌年四月十三日壬寅收糟屋許造春禾連廣國鑄鐘

西鐘樓 方丈のあ
ふゆ

正法山妙心禪寺住持比丘森巖隻錫
黄鐘調大鐘懸櫻子掲り縛の中又銘あり
古代の傑あり其銘曰

○西鐘樓スミ 方丈のあ
小ゆう

金
錄
元

毘盧藏 法堂の東小ゆき山中の經藏之額ハ 伏見院の宝筆
大坂淀屋 巨庵と云ふ者美金一千兩を
家附 一ノ建物有り
四松 仰臥の松
山中之名也
山中之名也
新泉派 東海派
墨雲派 圣澤派
四松 乃
四松
老樹の大松 屈蟠の枝
山中之名也
衡梅院の内あり
伽藍 東西に
鐘樓 仰臥の松
側小屋
經藏の
名と云
開く所
外面と
ある當山
六世高江和尚
衡梅院に
在り
之初ハ
衡梅院の
内あり
伽藍
東西に
在り

李懷仁書

右都々一
行廿二字み
鑄ばば成の年
脣か明かうに
稽屋も筑あ
郡名く連ムテ
名詳ハ地名造
ミヤツコヘ春
朱ハ底みく連
ち名形寺說云
は達ハ暖峰津
度圓久し荒廢
寺說云は達ハ
暖峰津金剛院
の達ありはは
據よく京師
古流れたり樓
と據よく持ゆ
其主の云クワキ
向山圓師あり
て見外云ク其
心寺の故は
農具鋤の持
之は達主の云
其主の云クワキ
樓と據よく持
伊豆暖峰津金
剛院の達あり
人持んこひ寺
小の持ゆる所
此の持ゆる所
暖峰津金剛院
の達あり

古圖
龜山殿の東ふ芹川脇（ひのえのわき）艮小北辰あり其北阿津金剛院
小夏のあふる壽量院あり其あふる崇艸院其小多法華堂あり大橋
社の東ふ阿端屋の佛所あり今の源川ちの地ふ南（やま）アリ云云
橋の太后れ（おとこ）たてられ檀林寺（だんりんじ）と云ひ今ハ破壊（はかい）一そ破
道觀上人と長老（おきなわ）ふかされ津土宗（つどそう）とお名

甲

生う骨ふつをく吹ゆる

後漢書

津金別院の鐘北齊又云之にぞう之
抄るふ津金別院へいひ天龍寺の北小ゆりはち建立の時院み荒来
古跡のを残と故に旧号となりて後院二尊院の内小再営せり
あれとつれく州の莊青鐵趣ふつとふの南太秦の東み旧跡ありと
高一ノハ謬あらん矣

常山小十境の風景あり第紫山へ乾の方仁和ひととく高安離の南の
門あらゆり度名橋は流みりて宇多川へゆふもう东の方北少流之鷄足
嶺の小の山南義塔の南方遙りく東寺の塔北遠系之齊宮杜も
東方の川端みゆり舊精田へ當ちの内苑の旧跡へ西苑洞より大
雄院の南惠林院の北の方北深谷を以て麒麟閣へ苑園法皇の宿
影と安らう所みゆく麟德殿とも云ひ王周院の中小あら
方丈 法堂の小みゆく唐門もえ原和尚あるが遠井方丈棟の席も
天休之ゆが南もく極く點心寮と修る勅使來駕の時
號也立ワくく櫻齋也

同南方之室

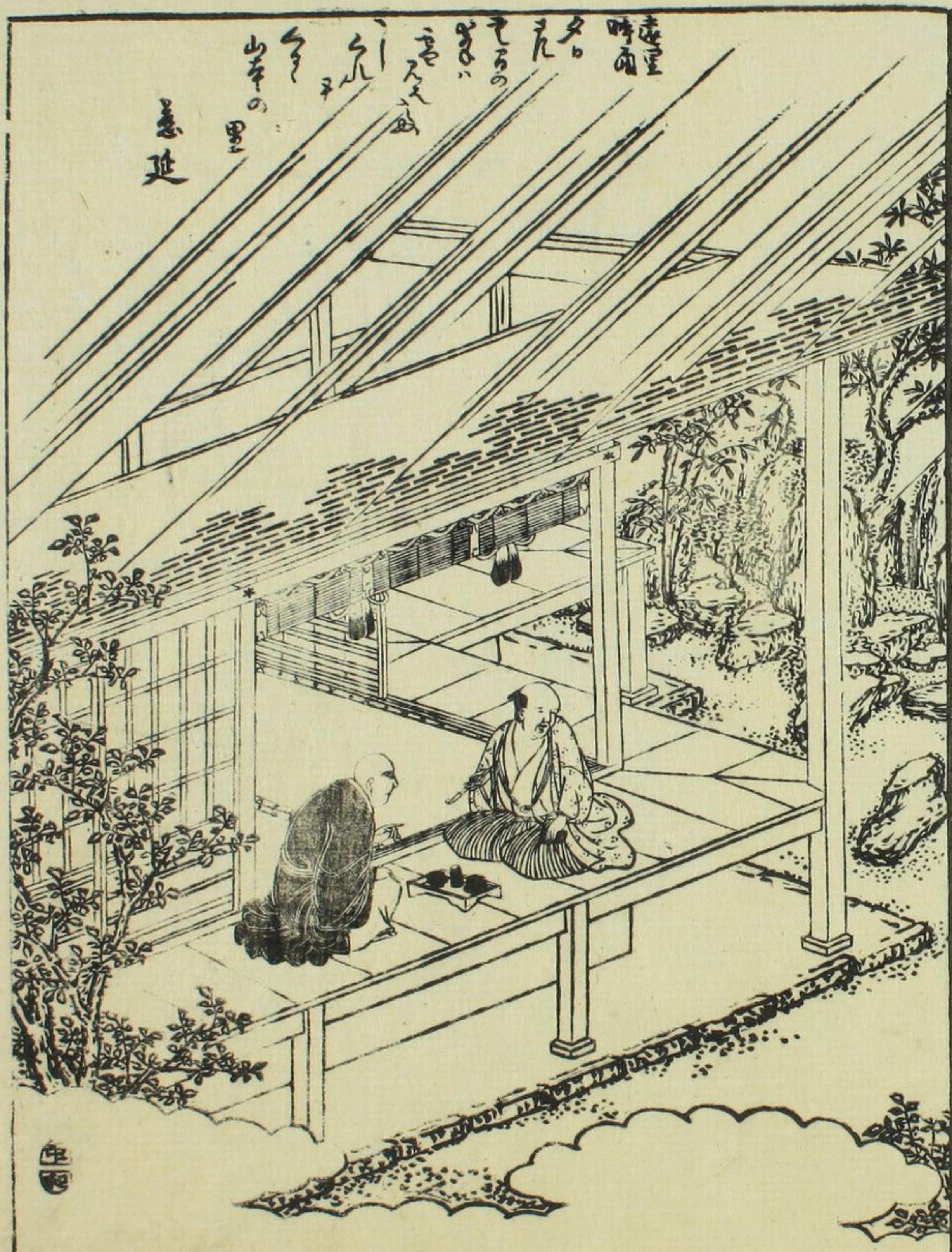
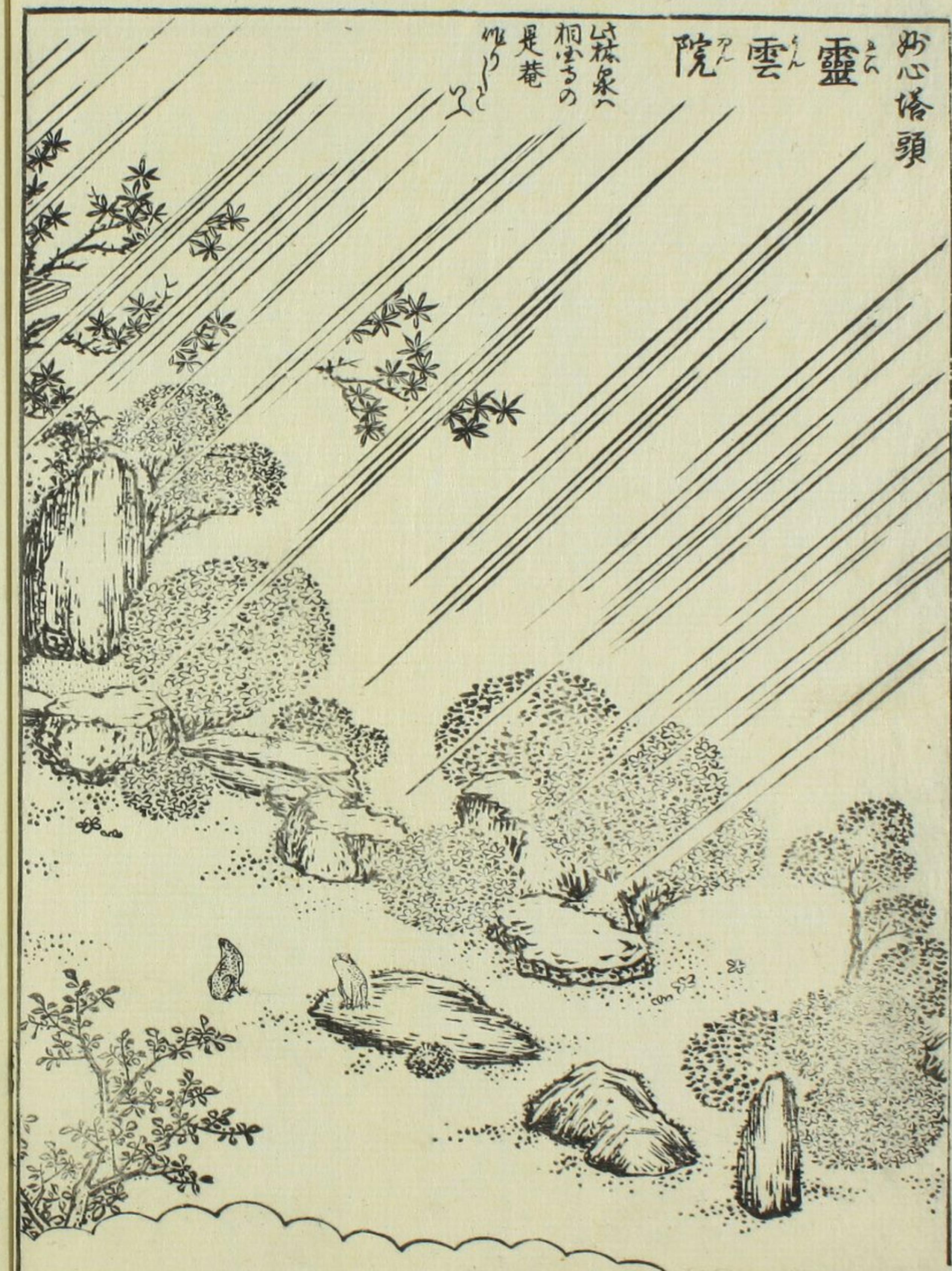
東向中間探幽尋
西向采女益信名復号
東向中間探幽主馬革西向探
西向采幽尋北西向探

幽叟子叢書

妙心塔頭

靈雲院

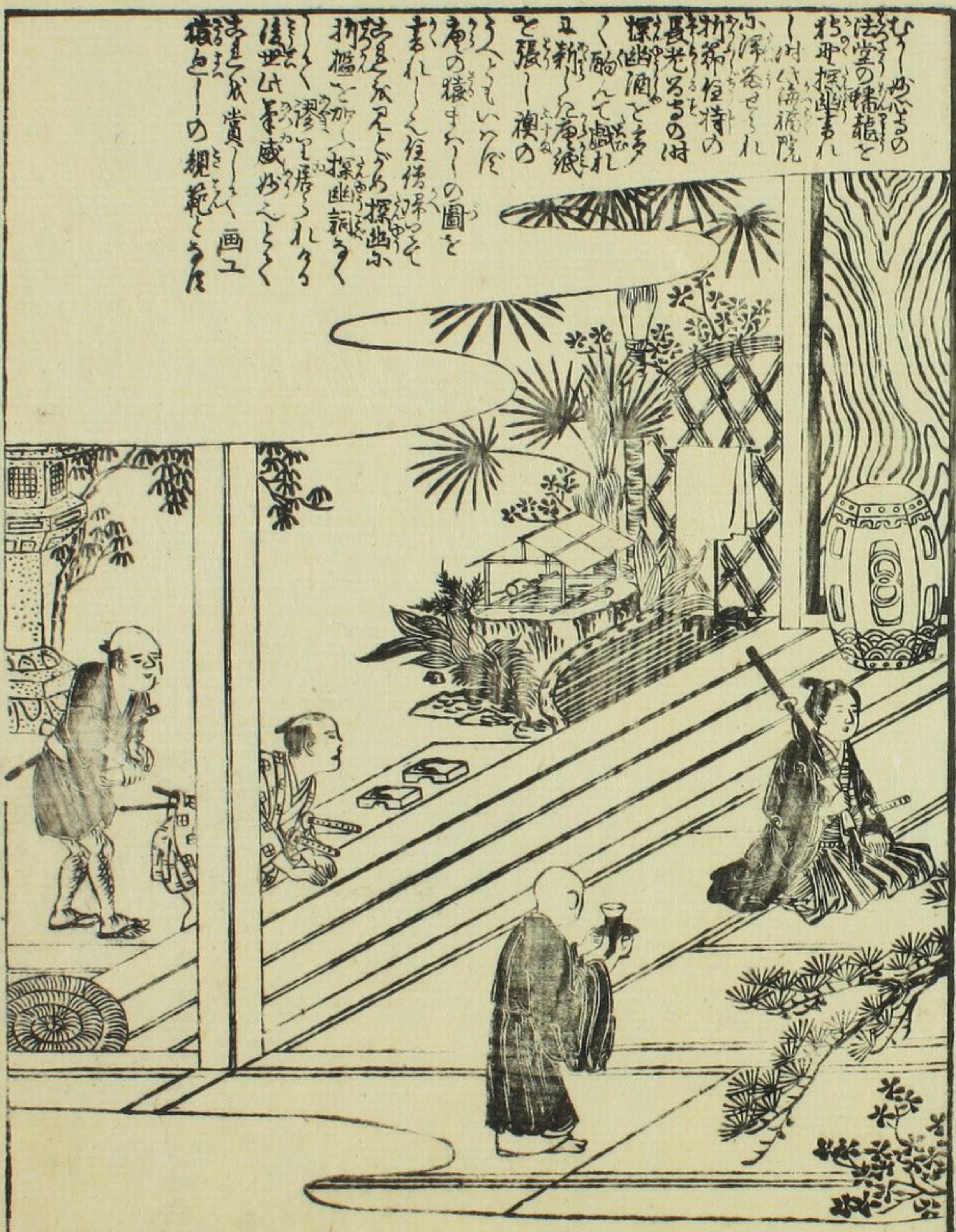
は株衆へ
相思の
是菴



心塔頭
海福院

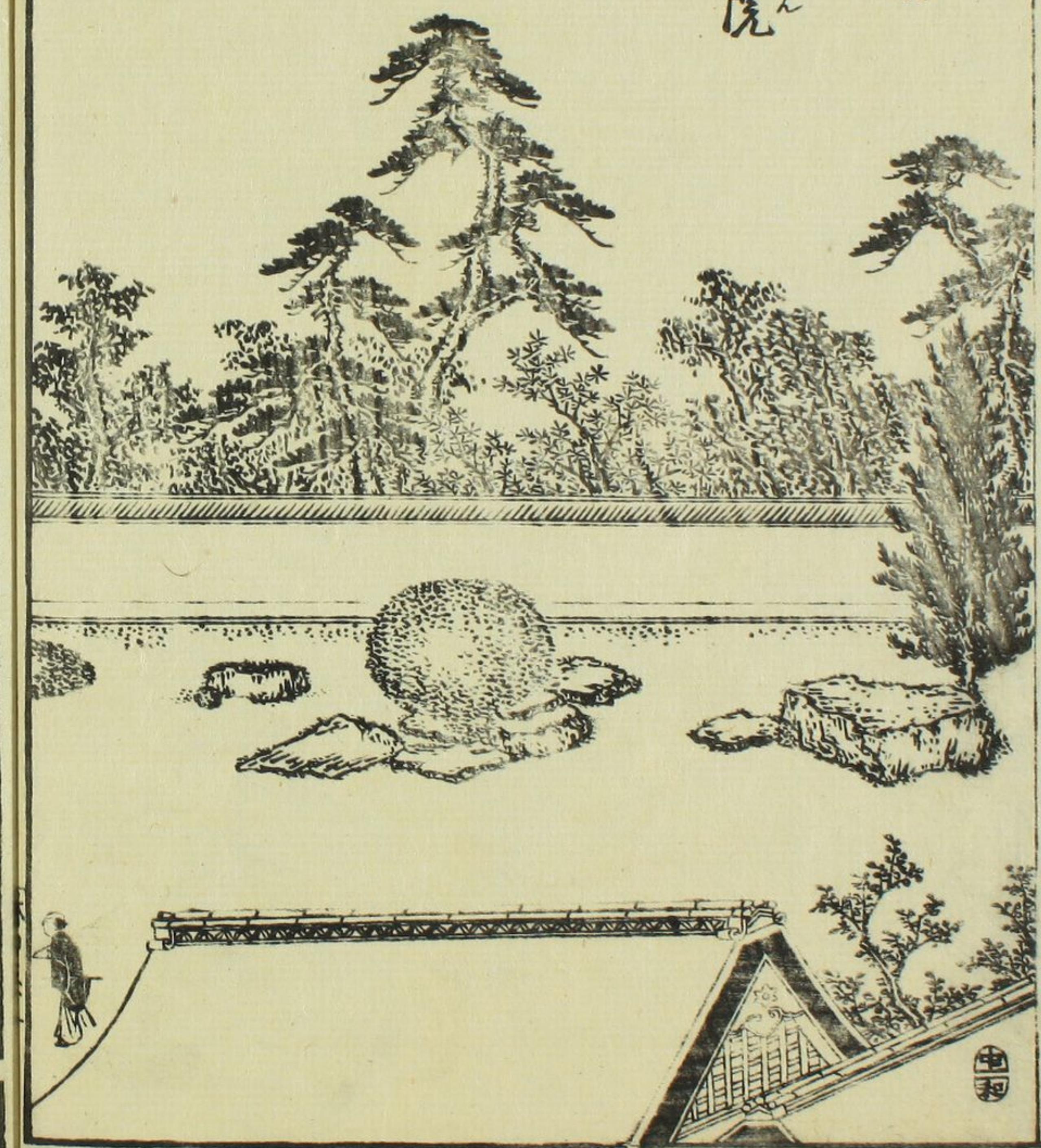
名画

様々圖



妙心塔頭

雜華院



大應國師像

寧一山贊

虛堂和尚像

自贊

入火山所見

龍圖
柳

東室次首
總張附山水鴻臚探幽

凶山圖解
卷之三

右二幅對

曹子之南歸佛
李龍珉著

達解之命係遺滅翁賈
門無閑筆

布袋和尚像

大燈函所與閩山函所印證
關山函所像 玄江和尚

虎圖

楊月洞筆

羅漢像 八幅
兆慶司筆

四

八
同

大老爺飾墨跡

○西室，向
總張附
序許墨信

拾得山隱庵詩

卷之三
宋徽宗皇帝書
蘇軾題跋

紀言錄 志卷六

花鳥

山水

山水圖 唐伯虎筆
愁山德清 墨蹟
山水圖 唐伯虎筆

釋尊乳供像

吳道子筆

山水

牧溪筆

觀音像

牧溪筆
無準齋

達廣像

古法眼筆

觀音像

牧溪筆

老子騎牛圖

張秀泉筆

姚仲臣 墨畫

山水 穆君隣

三方丈 花鳥圖

厅山尚景画
松戶花鳥

拾得

同

觀音

寒山

然可捐者

鐵拐仙人

吳草小仙筆

柳葵

呂紀筆

仙逸圖

文徵明筆

張大

石鈞筆

西室次間

探幽

張大

虎

右三幅對

出山繹遊

張大

龍

維摩

人物

張大

趙子昂一墨跡

張大

畫錦堂記

張大

醉翁亭記

張大

東坡詩

張大

東坡八幅

張大

屏風

張大

妙心塔頭
續桃院



林泉寺
妙心院
多喜山
書院の画
松聖水
又は南院教忠
わ尚の筆蹟



妙心塔頭

大嶺院



大嶺院の林泉
藤村謙軒
作



○後水尾上皇宸翰

ゑと乃眉ゑうあーたる梅う桃う

龜年和尚南山圓山國師二百年回之時香語

一枝微笑梅耶杏

○豊太閤秀吉公御子棄君御持物

黄金作産衣鎧

忍金細工排威

○寶劍

棄君御守刀鞘小美金と内く俱利迦羅不動の儀伏

傳云此寶劍へして後藤祐新より大秀吉所持の鎧云
助に因家田橋み於く私と安く退治次具矢根大寶劍
代々秀卿の後裔蒲生氏の第小傳未だ會津蒲生君出
飛彈守氏卿又至つ秀吉公の寵と號す奥州
お松の誠主と吉瑞の名劍と秀吉公又之と献そ豊太閤去
誕のゆき吉瑞の名劍と秀吉公又之と献そ豊太閤
の後遺散と祥光寺又藏ひ山寺へ大仰今の大寶劍
あり祥光寺へ後平山妙心も少ぬを故ニ宝劍鎧兜
及び寶劍と號すみか山寺の什室とある俗謡云蒲生
院深さ式卿は宝劍と獻せしよ蒲生翁年翁遊
妻へ子息翁ニ市の世を成く會津と漫叔ちよき所
宇は宮みく十八万石父賜へとせられ

○正鳳院法堂の東の方初メ山跡花園法皇宸居の御殿あり崩御の後

院跡

南面

初メ山跡

宸書の尊影を安置す南面下唐門あり

詩翁云大坂

太布金次散

麟德殿

麟德殿

唐門右房門

あきこて改修

麟德殿

麟德殿

唐門左房門

名義ハ漢宣帝

麟德殿

麟德殿

唐門右房門

麟德殿

麟德殿

麟德殿

唐門左房門

法皇宸影

麟德殿

麟德殿

唐門右房門

法皇宸影

麟德殿

麟德殿

唐門左房門

花園法皇宸影

麟德殿

麟德殿

唐門右房門

後屢小二片の圍屢あり縁黒漆地板金濃茶小段階二級黒漆長押

の上締花茶金濃真四方ハ黒縁其下み扇戸四枚地黒漆ありく鉢縁

をり内く畫と作る四幅對の如く諸小云い扇戸ハ唐玄宗皇帝乃

殿の具として云作り戸の内を引ゆる花色地縫中央み紅の善璧

縫皆其内陣を宸教と安坐し右の間には武間の外小た右南廻一向北

やう内金濃口黒漆の障子其東小安坐へ將軍家御代々神牌西檻事

あつ内金濃口黒漆の障子其東小安坐へ將軍家御代々神牌西檻事

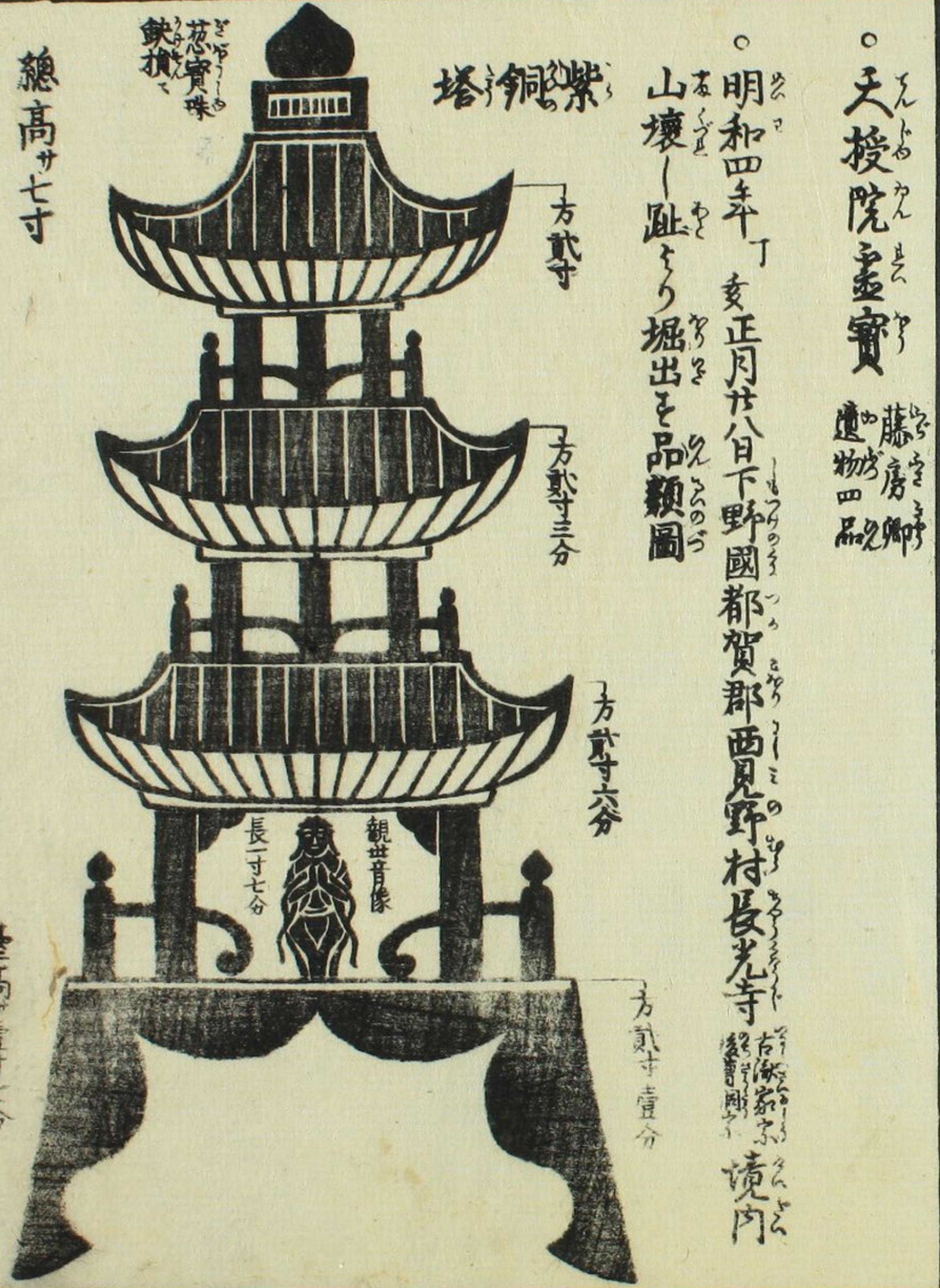
祥雲院殿畫
秀吉の
信長公 信忠公
秀吉公 武田信玄等の牌を安とあ檀の赤中央小紫銅一重寶塔あり
許其中小唐木の
高文
越前黒竹て日東の面小南無觀世音菩薩乃文字
あり此字は 後水尾院の御爪くづき又く南都圓照寺宮文守尼の御細工也
此尼公へ後水尾帝母後水尾帝母一位局四辻大納言公鑑卿公鑑卿の妹あり
後光小准トモ一ゆ
故率室右方丈東檀の東額故華堂模擬
法皇の玉座右方丈東檀の東額故華堂模擬

後光小准
拈華室
右方丈東檻の東
方ハ間の席向
額 拈華堂
模擬
和尚手
山六世之間には
有面長押の上小榻る
間の内小壁東方より
座ゆる金張附畫ハ甚其之容
益信筆
其下虚棚
金貝 中臺
草疊上
小被めりされ宸坐あり

山禪ありあれ宸坐あり
○閨山堂 方丈の
額 微笑庵 標名江亭
向山の勝處安とす所へ別名化ツ
小の方へ退く事八向其東乃側
額のやうなれ極高サ立尺許
龜趺を立付あれは閨山幽所の
行狀記と彌勒を真北高サ二尺
段階四級欄干葱寶珠共ふ黒漆
戸覆水引紺也唐歛中ふ縫の華鬘
小圓扇二枚とた川藤さ六尺
小圓扇二枚とた川藤さ六尺

開山國師像 長ノ歟余倚子みつる法服
地鶴紋の純子かずか竹籠たけのくわと持
人形の由化人ゆげにん國師の頭面かぶつ其面
の如おほく自然の出現じゆんすく益物えきものへ影かげあた
水みずを鞠ひざな手て水みずと曲まげへ又また菸子たばこ鼻紙はぢと供とも
一休拜開山塔頌
不鋤乃祖玄涅槃正法妙心禪
鵠叫落開山月誰在華園躅躅前
杜荒艸不鋤乃祖玄涅槃正法妙心禪
涅槃堂同訥東の方むかし向むかふ
鑄銅涅槃像長ノ歟許儀面をうぎめんあつま
人ひと面おもてみか値金だきがねとりりく

自號小冠トドケをすく南朝の君恩スカウと報せらん名賢の驗アラタハシを下徃々の
 古哲源く考え候る兼あべーあり給う 法西院の時神光
 寂照禪師の勅謚タクセイあまく其須スミう能れあらふべー特小近年明和四
 年の夏下野國都賀郡西見野村長光寺境内より掘出セ一寶
 喧カミありタガタとあまく愈定タマツキは宝昌領主より 將軍家の
 台後タヒタ小倣葵サカナヒゲ御紋の拂櫃ハラタケと賜へ毎兼一度タモト其領主より捨かる
 よーと今せよ御心寺の赤院江戸牛込濟松寺の吹舉スルヨウ
 と同く 官家シムケイ申上く今天授院が勝タケルと玉寶タマタケを御當附に百余
 年の后のちまで忠賢チホンと慶カネの徳を匿カムし終スル來スルされば原邊ハラヘンのいそだ
 よきあべー龍蓮比干ラオレンヒカンが諫カミふ死スル伯夷叔齊ハヤシタツイが首陽スヒヤウを踏屈平
 が渢父カタシタチの辭カタハシもよごして忠臣名賢の清津光塵キントクコウジン室虛自性ムツジシキ乃
 月乃やううあるも其頃閑山國師カニツクニ外へあられど居リを
 おりづれ候



總高サ七寸

臺高壹寸七分

古鏡圖

表體

真國四年壬午三月吉日

寶祚貞父

賡慶資道卿公

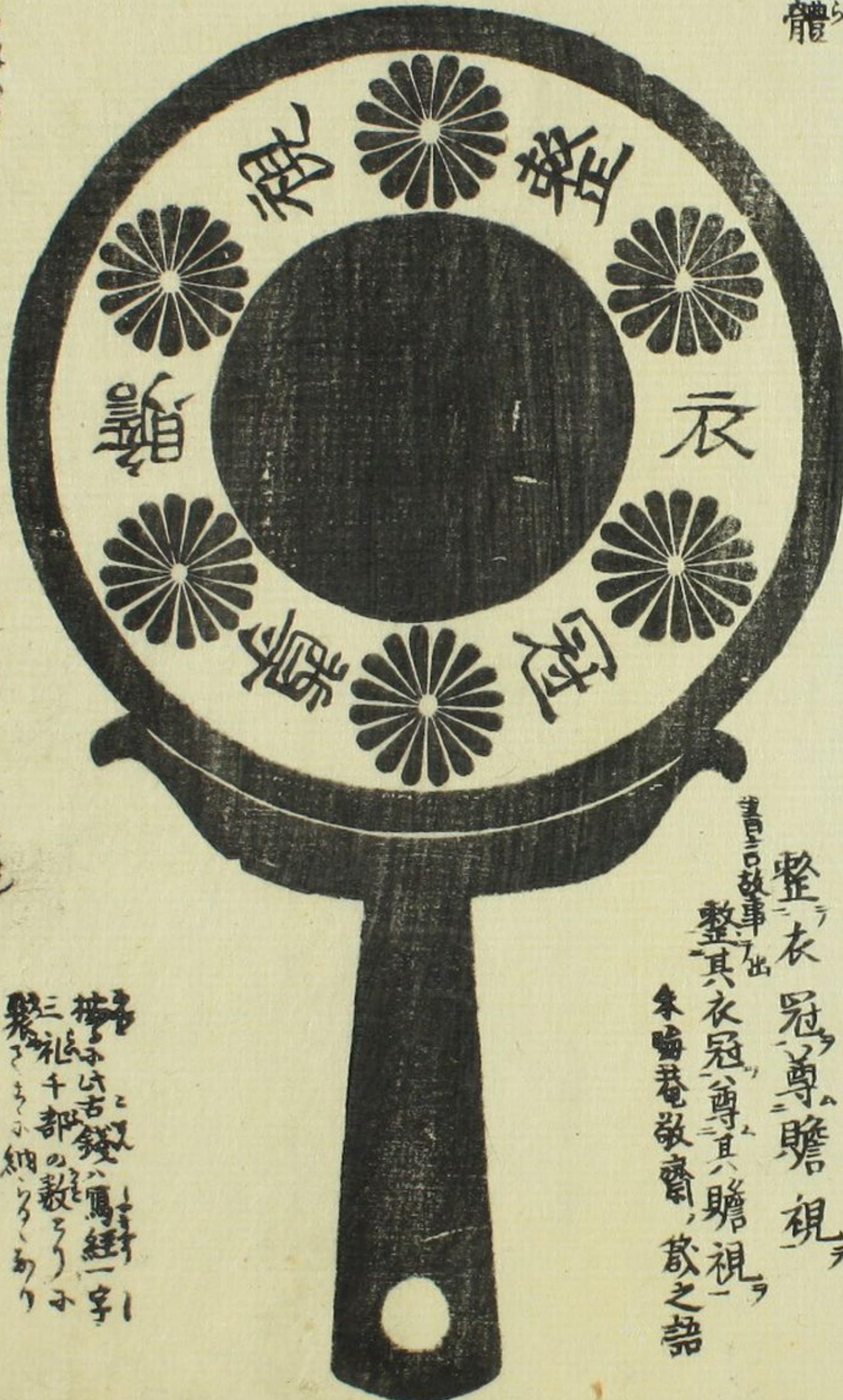
當鑄王經一字元祐錢小部

從位宣房卿公福壽

不二行者授翁敬白

圓徑 三寸八分
柄長 兩寸八分
柄幅 上立分
下六分

裏體



整衣冠尊瞻視
書言故事出
整其衣冠尊其瞻視
朱晦菴敬齋款之語

。紫銅塔

圖の如く塔内小。正觀も一龜。

。古鏡一面

圖の如く。古銅也。古錢九百九拾壹文。

塔内古銅也。寫經二字
三札千部の數也。又
納也。あり。

但一龜内掘出一龜。後缺。古銅十五文。存。在の清九百七十文。各文字替わり。又内四百七十三文。文字分明。かく。四十三文。古銅。又四百六十文。文字左の通。

皇宋通宝四十二文

元祐通宝八十文

至元通宝三文

熙寧元宝四十九文

元豐通宝百十九文

。系譜云大藏冠。篠足六代。關院左大臣

冬嗣公。七男内。舍人良門。十二代

經房。暗定。經資。經為。經

經俊。資通。宣房。万里藤房

季房。云云。

。奥國四年。東朝。法於上帝の
御位の奉職。之以朝康永元年
小當院。後醍醐天皇崩御
五年的後也。

元符通宝拾六文
嘉祐元宝五文
淳化元宝壹文
天聖元宝九八文
大平通宝貳文
景德元宝九文
宋元通宝壹文
文字不明共都合貳拾七品右古錢在壺中掘出之財壺破壞矣

政和通宝拾五文
開元通宝四文
咸平元宝五文
天禧通宝十貳文
明道元宝貳文
至道元宝貳文
宣和通宝貳文
文字不明共都合貳拾七品右古錢在壺中掘出之財壺破壞矣

祥符元宝九二文
嘉祐通宝壹文
皇宋元宝貳文
治平元宝十五文
治平通宝貳文
祥符元宝九二文
嘉祐通宝壹文
皇宋元宝貳文
治平元宝十五文
治平通宝貳文

經文切壺中小大母紙上古錢之經文相見也
告乃換に殘紙が壁上也
已上四箇品

万里小活着房は幼うるおほきの書とてゆりゆひて上の活たれ事と
えられたまはそが一ヶ月の上りて今年のそりれ祝詠はうう
まううめぐらと活下され余金玉のあく葉とそな或幽妙をそくと人を
詩すとはううあつれなれども着房の詩惟全くまうれそりうう
春來品物都春容木母花開香正濃
今日太平三朝且家醉賞更飛鍾
着房
は詩をうみよ奉せられまへ龍顏特丑うういた拂來ふくねおまかの
よ強しくはらむ下年父の口に下されやううとを

授翁和尚自贊

此係妙心寺塔頭文授院の藏あり

朝遊夕處威音王前不立家國坐斷大子
無因無果白日青天七凹八凸佛祖不傳
于見塵軒

應安初元八月

接引和尚應安元年ハ後醍醐天皇崩御之年の後之又圓山國師遷化
延文五年の間年も授翁和尚の入寂の圓山國師より二十年後之

覺印天澤東亂錄云

微聯勸書云況又藤房者王佐才鳴於世間矣
元政枝条源流傳云
如常六祖傳云
藤房卿出家四十二

高泉枝条傳林僧室傳云

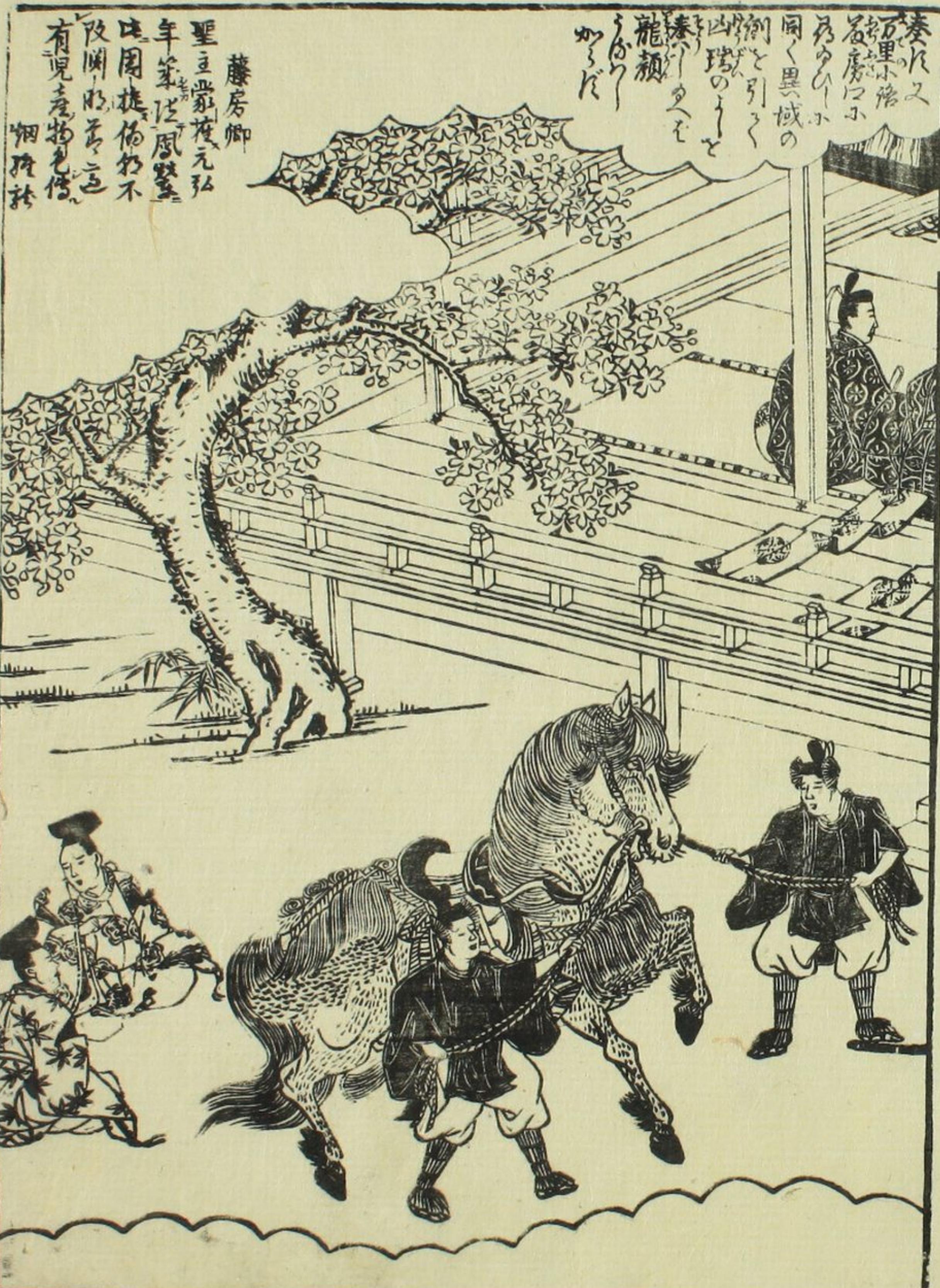
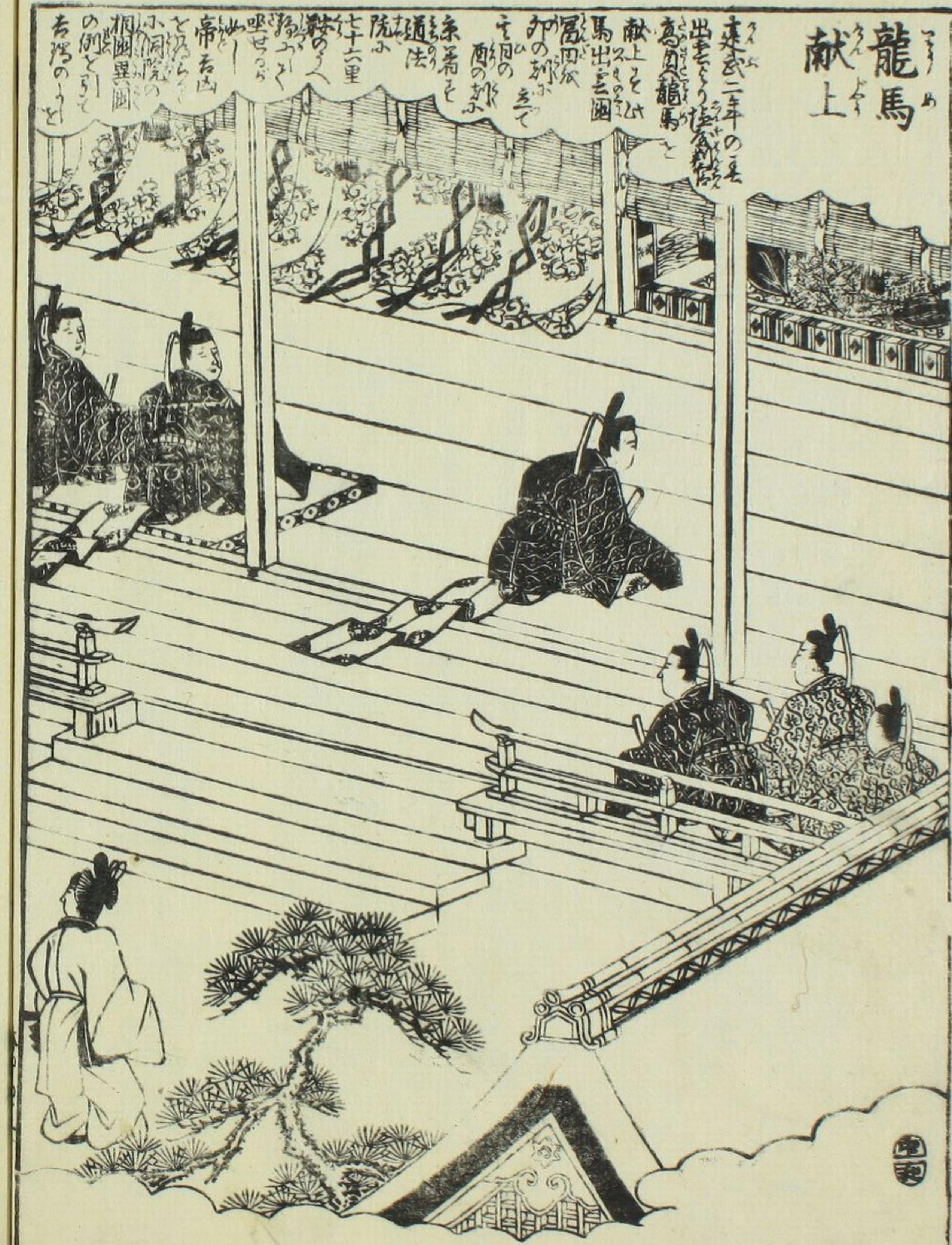
藤房卿出家三十八

藤房卿出家三十八

藤房卿出家一十九年記猶未達至塔寺石碑遷彰の通也如岩倉
直不二月房入新髮小金口大塔宮護良親王死殺害一主防人
登方崇遠統元年五月補正成乞座漆川寺死之
久津變と即く索引鑑と出家一十九年後康慶二年入寂
八十五歳の中年四十五年と引を

出家一十九年四十五年と引を

龍馬獻上



○藤房卿髮塔

比岩倉大觀寺靈光堂上鑿於石壁の東

井

中

傳聞小初心寺小徑下樹下菴祖芳とて僧あり姓人彼卿の古墳を爲ん
とく小岩倉のやうと逍遙を小路の側小岩房の髮塔とて小標れり
昂林中少入る小足小荆棘の蔓を蓑苔居たりて閑されと剝て至る
李子木一小標れと建て今も便あぐとくあるのふ乃れと曾て多
あくに因茲併智弘愚とく一七日の歩と運びて魏君行持度毒草治る
毎小寺古墳とお次第と同小山の法師の老人第一力黒三衣藏と着て出
來て古樹とれども車駕殊勝と祖芳昨嘆くより早立事向て云し石燈
六つある人の像がて勿れまほ萬里小路藤房卿の髮塔もくべ地不二處
回蹟其は山岩倉實相院宮の候人上高京成のまじて石室の回蹟とて車
御殿の舊記小豫乃く後今もう千年未暴風烈とけ塔の下根の蔓
大木の木倒り木直内塔も俱小竹ひづる小屋石下二重目の石室虛そ其中
小銅の筒也守貞す許らう歩く筒中毛髮筋もあきわあつ故毛髮塔也

碑表

万里小路中納言藤房卿髮塔

記百八十字

山城州北巖倉大雲教寺封境不二房舊
址有一基石浮圖傳言藤房卿髮塔徃昔
建武甲戌之冬藤房掛冠道蹤岩倉禮於
不二房法一蘷髮自爾瓶彩韜光居無定
處此塔久歷星霜古貌歸然藏髮銅筒安
乎塔之中央竊惟法一追感藤房贊德建
乎山國師衣法遂為妙心禪寺第二世諱宗
弱荆榛荒涼不可識彫刺片石記其概畧
以爲後標

寛政二年庚戌三月廿八日

祖芳焚香謹識

卷房は後醍醐帝より傳く藤泰翁が作れど寫小山の岩倉を題す
鑿一と不二房との者に戒師と云。青梅と文宣房とてまことに追ひ居る
け曉石倉を去りて宣房到りより小室房の立壁と見れるを可す。

住も向ひ山を博世の人と云ふや度の在すあらん
本草記云
御本草河内丹波國と去り一付とつあ書ありて巻房の真蹟に別横田川のやうり
の感寺の什寶とてむり太平記の他共にあれば侍へて岩倉不二房小出しきり
せられともあまみ本つゝ利鑿一其曉直ふ生去りし一木屋と云ゆ乃立文字
翻語せりるが後考とヨリ

致あ勢巣山かく細弟左馬時能見まで其後一条が將と跡もとと云ふ年月と合せくされば岩さ住高と云ふ
一も又浮舟の人才向れとぞりと小高りとぞり
一条が將と跡もとと云ふ年月と合せくされば岩さ住高と云ふ
一も後の事と誠の方もう蘇榮へ通うかとん折りや其後絶て跡若
信と聞さり

退藏院山川世無因宗因和尚開基に又日嘗和尚中興に初ノ波野所
守無因の爲に建立一庵中へ画聖古法眼元信の

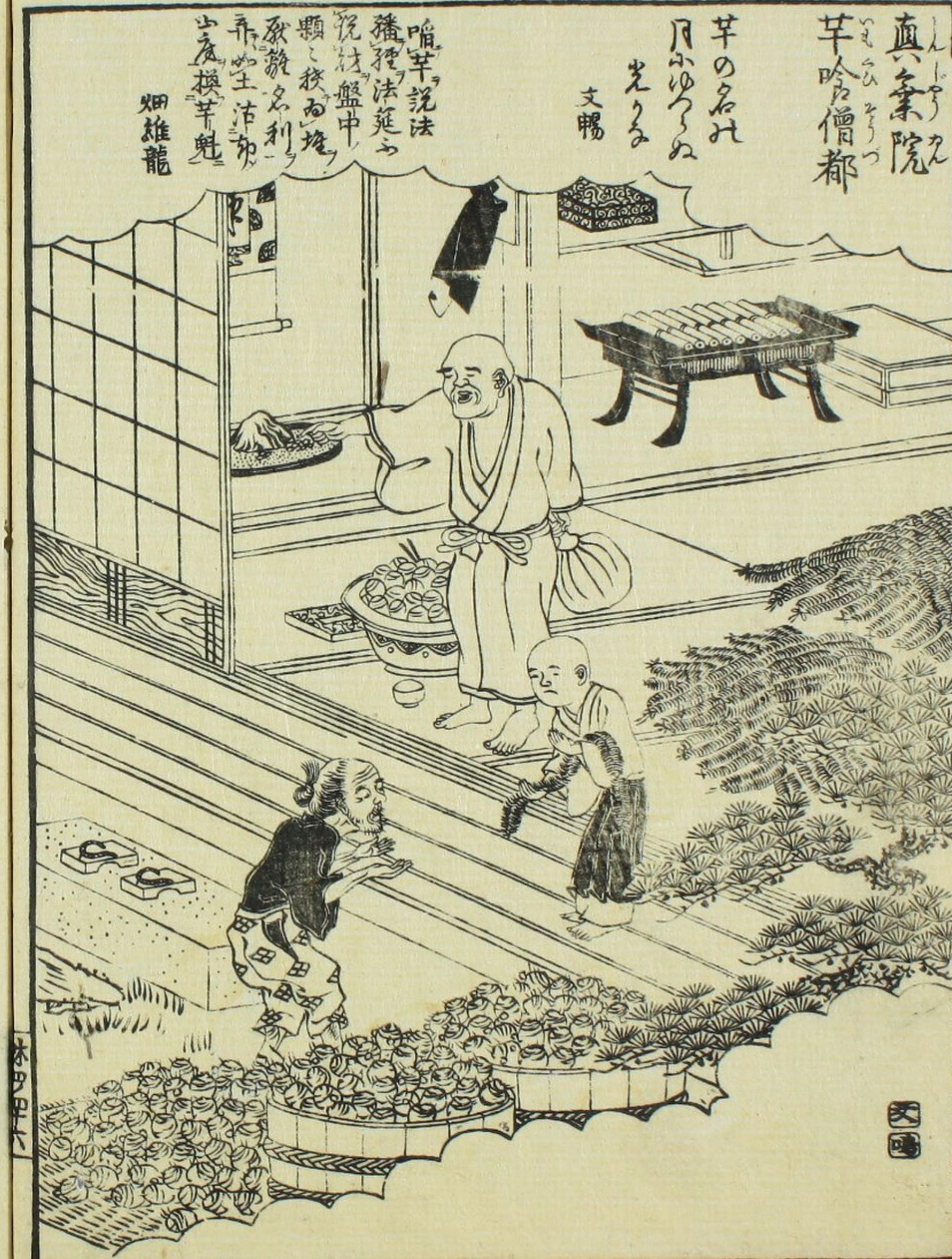
○書源院 山川財四世
○如是院 山川財五世
○衡梅院 山川財六世
伊賀守後院の庵中あり
右 微笑庵已下山六祖と云
△龍泉庵 景堂創建
△東海庵 梅溪宗頤創建
△靈雲院 梅溪宗頤掃部建立
△靈雲院 梅溪宗頤傳云
の後其子と角く恨ふ人の爲に命取らか死画も今此物と云
け時古法眼の画と人との所へ故に人休和尚退藏
又云天和二年 龍泉庵古法眼の画と人休和尚退藏
其後金森宗和が書院と號して亦は書院と寫りく建た
院と同形と云云

妙心塔頭

退藏院

山林泉石
移此古法眼
惟之ーと





妙心塔頭
春浦院



林泉虎溪を
編ひといへ什麼小
福富といへ
名画あり世小
其名字も



○聖澤院

大慈和尚創建東陽和尚と勸請して向基歟

右四派祖

○大通院 南基は湘南和尚之此人が初メ土佐國家の良基も山水の勝景多々一茶吉成紀州禪林寺來山和尚が奉り樹巖岩と號す
半正法祐小尼より庵中風起山才一小石入之の圖竹林の雀等ハ都く松平土佐彦也
當院の極誠も海友君の筆く
○幡施院 唐院の林泉小春石名岩多々客殿の画へ花を謹候
又三國志墨画海行興み於永徳の画あり其間
御所と書院へ松平陸奥守辰禮誠也
○雜義院 林泉ハ名庭を有す石太賀十六羅漢等准へ
釋尊大會の体相が表に昭運宗徒正誠乃他も
画工の親範ともある後世ありて今賞
○海福院 一亩和尚が勸請して南基とて幡施福清大房門正則の
書院の襖扇紙の上々探幽法至海行墨画あり
猿也の圖を画く住持外御子孫の如く紙石名岩と
扇紙小棚小物画と書本不疑の至記と大師僧りと比らど
名探幽法至誠かく入體之其承が證めふとく
画工の親範ともある後世ありて今賞
○麟祥院 ぬ心寺門の東本辻村より寛永十一年建立
○太嶺院 標誠八文字至
○桂善院 標誠石河源人

又客殿の画へ山水唐子遊百牛廿四孝
あれみか物也興意の筆也
○春浦院 林泉京師庸軒の他
光同塵也
那柳土佐彦
○麟祥院 標誠丹後ち侯
書院ハ楓葉丹後ち侯
殿とゆき小樹されしとて内の繪繪へ附せ古右京の筆也
方丈より叙述仰と安次還慶の化入迦葉等ハ朝鮮人より献
トクとて阿難ハ新化額ハ朝鮮梅源寺門の襖の西ら海
故君書院の画へ△護天神祠
小洛の乞みく天滿神現と頼信より宣へ早く凶徒成退
トクとて阿難ハ新化額ハ朝鮮梅源寺門の襖の西ら海
故君書院の筆也
今時世人志方奉持あれども毎歲大般若經翻譯
正法
○春浦院 は所の南車街の西側也
光同塵也
那柳土佐彦

當院方丈の画も都々谷漢の筆也又林泉へ虎漢の筆也又
東あらあとの付寶も猪富と名ばる高戲画の壯乃也
妙筆也画師詳らうが従昔の土代家の影威人警を
多び傍西の書れ放屁軍ふ仰くらかべりかく上へ
ありくかく面白く席上み大笑ひと嘆息絵画之時を
高貴其家一も上邊み傳へ世に名高

大光院

林泉妙境

其外妙心寺境内塔頭都而八十餘寺あり名也も高貴諸侯

の菩提所故み予人異點觀の

芊

其外妙心寺境内塔頭都而八十餘寺あり名也も高貴諸侯
の菩提所故み予人異點觀の

纏と

著そゆみ

妙心寺小門内封境を所詳みせり真宗院と云ふにわる

佛道傳り

あり花園法皇仙洞と建せりゆん已前へ圓山圓作僅あり室庵とて

金燈

あり山圓作の故鄉信州の人誠ひありけ候と云ふ矣止ふぞひ

金燈

あり山圓作の故郷信州の人誠ひありけ候と云ふ矣止ふぞひ

生來まことばづかふとくめれをやつてひきもくらひてゆうたれ
ひきうはくちてゆきうどた那時もくひとく定てくがづひ
くた時衣ふうにも曉ふもくひく祥づされば是もうけこりうてくうる
大事あれものつまういれど同慶あれひく教のほんとと爲
しきうをあわうとよのはのうぬゑわれと人子をもれ爲
を後川ゆくこれう徳のつれむきるみや

大應國師塔妙心寺の南立所詳井村竹林の中より地原國師

龍翔寺の文字れ古原と姫出久る紫野大德寺塔頭の中
み寺號と極く再興み及則大德寺の陶山大燈圓師の

本朝達摩宗の大德わり

傳云大應國師諱ハ紹明字ハ南浦駿州安部郡の巨族藤氏の子

幼く駿州建穗寺津辨小事く法の出世伏學び年十五才又
く羅髮し奥足戒が受簾倉達長寺蘭溪隆和尚が泰
禪一正元の頃宗國み入く偏く諸山を訪へ時々虛堂和尚

津慈み接き遁風高峻學者敢く其門を登ふ事無く南浦
參謁し機鋒相切く虛堂大す歎んく賓客も典一む
日夕咨扣小一日虛堂の頂相と摸し讚ふ往く虛堂

書く曰

紹既明白語不レ失レ宗手頭數算

金一圓栗蓬大唐國裏無人會

文永八年太宰府崇福寺小止錫もる事二十三年泰徒日を燭之
嘉光の向詔奉く京師小入 太上皇後宇多布石く宮校小對一

向答敷坐小室へ勅下して萬壽禪寺を主とすむ延慶元年

臘月廿九日忽微疾ありて頌を書く曰

詞風罵雨佛祖不レ知

一機聲轉閃電猶運

書畢加跋遊次世壽上皇哀慕して已終勅し圓通

大應國師と謚ある寺を右京玉堂額し龍翔と號し塔を後山

小葉く善光といふ

一休和尚年譜云

寛正二年春遊嵯峨一路經西京入拜龍翔
之塔荒涼僧少堂宇頃一欹昭堂特龍山所
營而獨無恙庫院最廢
枉雲集物誰用龍翔廢寺
常住物誰用已身山門境致剪松筠
殿堂只與花零落廢地秋風二月春

後宇多院塔

大應圓師塔の左小双

賀陽門院塔

安井村龍翔寺古源竹林の塔五輪石塔婆公建

鹿苑寺

古源竹林の塔五輪石塔婆公建
賀陽門院へ後宇多院室女齊院准后母内人臣信清
この女之龍翔ち燒内ハ初ノ賀陽門院の寺前ノ窮屈の後大應

園作の徒効塔が冥く圓作の塔前と

と

林泉玉重金閣あり落盤小園風と草上と究責頂冲成潮春洞下

と

法水院

故金閣の名ゆ
鐵金鉢と金押

池と鏡湖と
万山八海石あり御茶水と銀河泉と

と

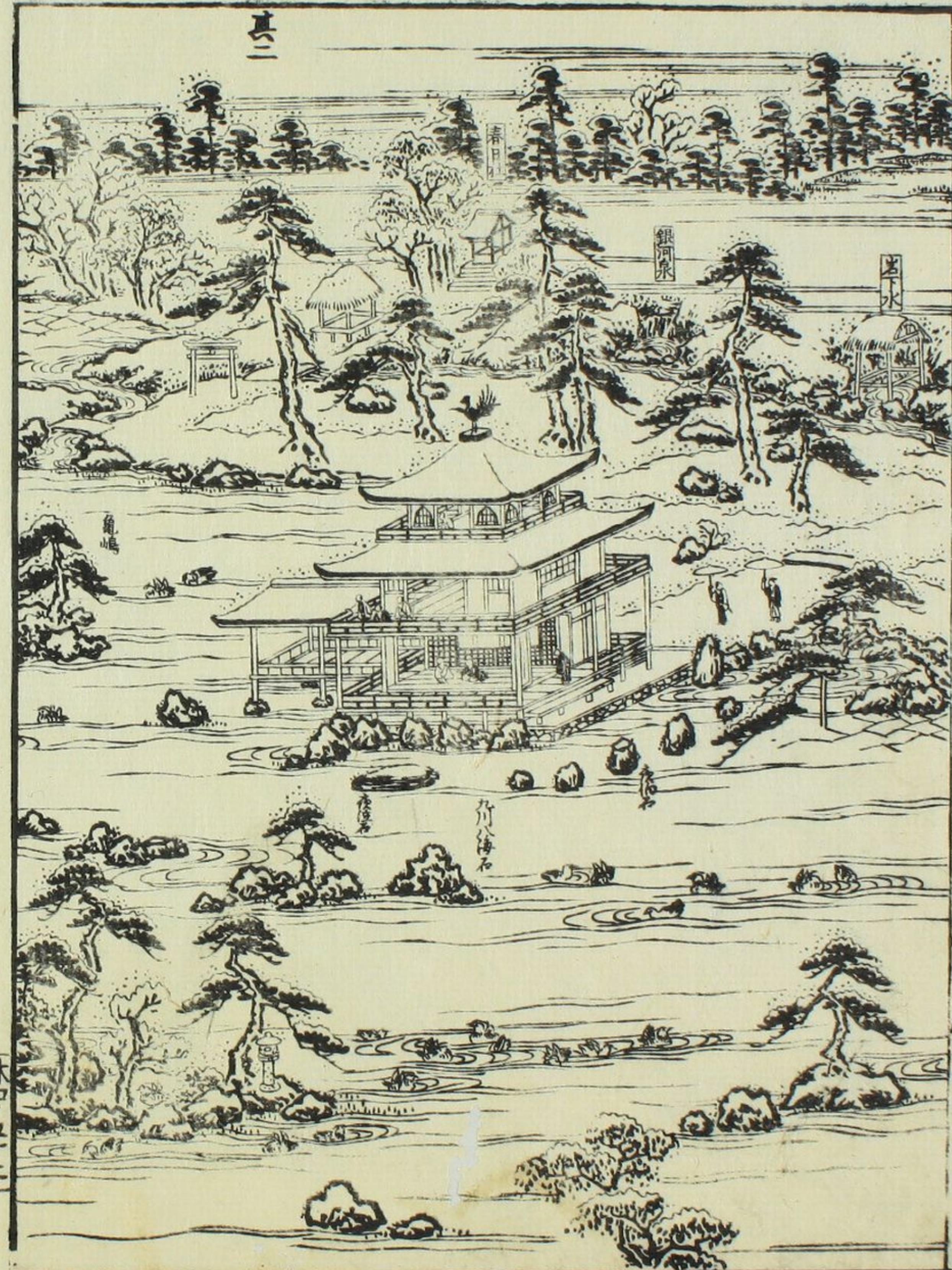
龍門瀑

ふ裡奥石のく安民澤ふ外龍石あつ明王院小石雑の不動と安次翁小波ス

と

獨結水あり来日御神事と實が園ふ漢宣帝の嘗て
鹿苑閣も比せんや





足利二代將軍義滿公の延文二年八月廿一日京都小艇を董名と春王より應安
元年十一月征夷大將軍の宣下より永和四年室町の亭より移て室町殿と号す
館内より名寫たる様と樹り附の人に拂所といふ同十二月従一位を叙於同年小
従一位小叙一拂直衣初より永德二年正月在官より任次同年將軍家紀州
和泉浦小遊び又富士山より赴く應永元年將軍と長子義持と護持と義滿公
大政大臣小住ト兵杖宣下あり世小傳ノ義滿相國承任せしと云ふ朝廷これ奉許故に
捨家より白山と稱すと朝廷大臣駕籠と大相國と勅辞に義滿自國王とうべく細川と
名不外と朝廷大臣駕籠と大相國と勅辭に應永五年六月鹿苑院小重高閣
を嘗む同年相國寺承七重之塔を建る金閣退居より小山殿と称ば明皇帝
書成賜ア革金一千両を寄る書公叢深原秀長仲次應永十五年八月六日
名征夷大將軍太政大臣従一位准ニ宮義滿公小山亭より薨歿本傳
鹿苑院殿と号す後勅使朱昂太上天皇の號を賜らる楊子義持より法辭及
之明帝より祭文を作て恭獻王と賞賜

都林泉名勝圖會卷之四

袖大和路便覽 一名芳山花葉折本一冊
珠他邪あわ地理に久しくざれへ惑ひ爰あひ此こ京より
大和巡めぐの路程船陸兩岸の地名并壁寫觀音乃大坂塔有
河内名而紀州和歌の浦見物す歸山より和弱み冬木良より前
御ものづる駕籠と大和國中の名所案内掌もと猶よく詳小
字より名而之を穿詔山の事と云様名と實もと著
名家の詩教あくまび被ひ引子乃織句を載於堂上と方鴻儒
文人歌人の詠仰詠教寫もとくらぐあらへ一ねづの藝達
率の傳つたへゆく御地の產物すに就きと浅いと始
末小摺こずびりん種類か乃便利呼よかと殊ことよほだらん拂水
清曉きよあらん

浪菴書肆

公齋こうさい稿こう通北久太郎町上入西側
河内屋喜兵衛梓行

